



鹿児島高専だより

NATIONAL INSTITUTE OF TECHNOLOGY(KOSEN), KAGOSHIMA COLLEGE

第 76 号
令和4年3月



独立行政法人 国立高等専門学校機構
鹿児島工業高等専門学校



目 次

● 校長室から	01
● 学生の活躍	02
● 学生表彰者	08
● 学生会だより	10
● 寮生会だより	12
● 部活動紹介	14
● 頑張ってます！課外活動！	20
● 卒業	24
● 卒業生の現在（本科・専攻科）	34
● ご寄附いただきました	38
● 教職員の動向（退職のご挨拶）.....	39
● 教職員の動向（新任教員紹介）.....	40
● 教務だより	43
● 総務企画だより	44
● 学生だより	45
● 志学寮だより	46
● 専攻科だより	47
● 地域共同テクノセンターだより	48
● 学生何でも相談室だより	49
● 国際交流だより	50
● 後援会だより	51



Society5.0 とチームワーク

校長 氷室 昭三

現代社会は、地球規模での困難で緊急度の高い数々の問題に直面しています。地球の気候変動や環境破壊、大規模な自然災害や原子炉の処理、世界的な感染症の拡大などは、人類の社会経済活動の急速なグローバル化により顕在化してきたものと考えられます。

今まさに世界を席卷している新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のパンデミックも、その一つで、2019 年末に発生した新型コロナウイルスは、またたく間に世界中に拡散し、令和 4 年 2 月 1 日時点ですでに全世界で 3 億 7800 万人以上が感染し、死者も 567 万人を超えるに至っています。

COVID-19 のパンデミックをきっかけに、世界は今、大きく変わろうとしています。みなさんもさまざまな常識が一変しているのを肌で感じ取っているのではないかと思います。

最近の新聞等で、ニューノーマルというキーワードをよく見ますが、社会に大きな変化が起こり、変化が起こる以前とは同じ姿に戻ることができず、新たな常識が定着することを意味している言葉です。

COVID-19 に現時点で収束の目途がたっていないことから、ビフォアコロナには戻れないし、ウィズコロナとしてのニューノーマルな生き方が求められています。

一方で、われわれは、**Society 5.0** や人生 100 年時代の到来、地方創成の実現やグローバル化の進展などに伴う諸課題に向き合わねばなりません。**Society5.0** とは、これからの超スマート社会のことで、サイバー空間と現実社会を融合した社会です。

ちなみに、私たち人類の歴史は、**Society1.0** と呼ばれる狩猟社会から始まります。しかし、狩猟ばか

りに頼っていると獲物がなくなります。そこで優秀な人たちが農耕社会を築くようになります。これが **Society2.0** と呼ばれている社会です。さらに、1600 年代になるとイギリスにボイルという人が、“空気はバネのような弾力をもっている” というのです。教科書には、“温度一定では圧力と体積は反比例する”と書いてありますが、このことが第 1 次産業革命を起こします。これが **Society3.0** と呼ばれる工業社会になっていきます。その後、**Society4.0** と呼ばれる情報社会という段階を経て発展してきました。

そして、学生諸君には、**Society5.0** 実現に向け、科学技術イノベーションを起こす技術者になってもらわなければなりません。

ところで、2019 年は、第 9 回ラグビーワールドカップが日本で開催された年でもありました。そのときのスローガンが“**One Team**”でしたが、“スポーツや仕事も含めて団体や集団で一つのことをやり遂げるときに、全員の力を合わせて一丸となってやり遂げる”といった意味で用いられています。出身地、文化、さまざまな生まれた背景が違って、目標に向かって一致団結し、その違いを乗り越えて、一つに結束したすばらしい日本代表のチームワークが印象的でした。このチームワークこそが、**Society5.0** を実現する原動力になると思っています。

日本における **Society2.0** の農耕社会ですが、日本の農業は、隣近所が協力し合って発達してきました。これは、聖徳太子が制定したと伝えられる十七条憲法の第一条の「和をもって貴しとなす」と結びつき、これによって日本の国民性は確立されてきたのではないかと推測しています。この意味ですが、何事をするにも、みんなが仲良くやり、いさかいを起こさないのが良いと解釈されていますが、安易に調子を合わせるのではなく、お互いに納得いくまでしっかり議論するべきだということを含んでいます。

現代の技術はさまざまな分野を総合して成り立っているものが多く、そこにはチームワークが必要となってくるのです。和を貴ぶ日本人が最も得意とするところ。日本の技術が国際的に勝ち残れるかは、チームワークにかかっていると思っています。いろんな分野の人がチームを形成し、つくりあげる技術こそが、これからの日本を支えるのではないのでしょうか。この国民性が技術の発展に大きく関係しており、これからチームの一員として活躍される学生諸君に大いに期待しています。



第54回全国高等専門学校サッカー選手権大会 優勝

仲間と掴んだ五連覇

サッカー部主将 長尾 賢志朗

僕達サッカー部は、部員80名で、疾風勁草というスローガンの元、全国高専大会優勝に向け活動しています。また今年は、リーグ戦の走破という目標も掲げ、大学生年代の学生リーグでリーグ優勝、高校年代のトップリーグでも一部残留という結果を残すことができました。

夏の一番の目標である全国高専大会は、昨年に引き続き、新型コロナウイルスの影響により12月に延期になりました。選手一人ひとりのモチベーションの継続や、コンディション維持等、難しい部分もありましたが、目標に掲げていた全国制覇を達成することができました。僕たち5年生は、今年でサッカーを引退する学生がほとんどです。これまでの集大成となるこの年に、自分達のサッカー人生に花を添える最高の結果を出せたことを心から嬉しく思います。僕はサッカーを通してたくさんの経験をする

ことができました。勝つ喜び、負ける悔しさ、仲間との絆、そして感謝の気持ち。自分一人では絶対に到達できなかった5連覇の目標もチームメイト、御指導下さった先生方を始め、父母会の皆様、後援会の方々、近隣の皆様に応援のおかげで成し遂げることができました。

僕は5年間部活を続けてきて、最後までやり切った自分を、チームメイトを誇りに思います。

「継続すること」は簡単なことではないと思います。それでも最後までやり切ったことを胸張って自慢できます。5年間最高に楽しかったです。ありがとうございました。



第56回全国高等専門学校体育大会 (バドミントン) 男子団体 優勝

今年度の活動報告

バドミントン部顧問 堂園 一

平素より鹿児島高専バドミントン部にご声援賜り、誠にありがとうございます。本年度、来年度につきましても本校バドミントン部に対しまして、引き続きご支援とご声援賜りますよう深くお願い申し上げます。

今年度につきましても昨年に引き続き、コロナウイルス感染拡大の影響でバドミントンに限らず多くの大会に影響がでました。弊社においても、鹿児島県IH予選の出場辞退、九州高専大会の中止、それに伴う全国高専大会代表決定戦の中止などこれでもかというほど多くの試練をいただいた一年でありました。

しかし、その苦難を乗り越え開催された全国高専大会男子団体において約半世紀果たせなかった鹿児島高専初の全国制覇という夢を叶えた部員は本当に素晴らしかったです。改めて選手に対して最大の賛

辞と敬意を評すとともに誇りに思います。また、鹿児島高専バドミントン部にご声援いただいた関係者の皆様、ファンの皆様、本当におめでとうございます。

これからも夢は続きます。この鹿児島高専初の快挙によって、部員もどんな難問にも、必ず答えはあること。挑戦し続ける限り、必ず答えを見つけ出せることを胸に刻むことができたと思います。これからも部員と共に全力で真剣勝負を追求しながら、鹿児島から九州、日本、そしていつかは、世界を感動させるチームを目指して活動して行きますので、関係者の皆様、ファンの皆様のお力添えを引き続き宜しくお願い申し上げます。





九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会
(代替大会) (ハンドボール) 優勝

0 勝からの初優勝

ハンドボール部顧問 白石 貴行

5 年生が入学した頃、ハンド部は年間 0 勝の県内最弱チームで、人数が足りない相手に負けたりしていた。練習の参加人数もまばらで、アクティビティが低かったため認識されていないのか地区大会の案内が来ないことも何度かあった。そんな中で今の 5 年生が入部してきたが、彼らは自分で考えて動ける学生だった。挨拶や態度も自分たちから発案して改善していた。試合に行けば、他の高校の先生たちからも「高専の子達、最近挨拶してくれるね。」「雰囲気がいいね。」と声をかけてもらえるようになった。

彼らの「自分達で考えて行動する」という強みは年々増していき、次第に大会でも結果がでてきた。令和元年度に創部初の九州沖縄地区高専大会優勝、そして令和 3 年度も優勝した。全国高専大会では、令和元年度は 0 勝だったが、今年度は 1 勝できた。

どちらの大会も優勝校との対戦だったが、今年度の大会が終わった時には部員皆の目に涙があった。全力で取り組んだ者にしか流せない涙だ。若い時にしかない瑞々しい感性の中で、こんな経験ができて羨ましいなとさえ思った。

最後に、いつも応援してくださる保護者の方々、教職員の方々、そして大会参加に補助を出してくださる後援会の方々のおかげで部員たちは笑顔で活動できています。心から感謝とお礼を申し上げます。



九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会
(代替大会) (柔道) 男子団体 優勝

柔道部物語

柔道部顧問 野澤 宏大

少し前に、天文館に「三五十五」という名の焼き芋屋さんができました。しかし平成初期を生きた世代の人間にとって、三五十五とは焼き芋屋ではありません。マンガ「柔道部物語」の主人公の名前です。そんな私は、今年度から柔道部の顧問になりました。

今年度の柔道部は、春先から全く大会に参加することなく、12 月の九州沖縄地区高専体育大会代替大会を迎えました。唯一の試合に参加すべく、12 月 18 日に学生 4 人とともに、バスで北九州へと向かったのです。

18 日は、浅生スポーツセンターにて個人戦が行われました。66 kg 以下級に 1 人 (1 E 内園春輝君)、73kg 以下級に 2 人 (4 C 川畑賢志郎君、1 M 蘭田清ノ介君) エントリーし、66kg 以下級は準優勝、73kg 以下級は 2 人とも 3 位となりました。

翌 19 日は、会場を小倉南武道場に移して、団体

戦が行われました。前述の通り、本校のメンバーは 4 人しかいません。メンバーが 5 人いる高専 (都城、大分) と対戦する場合は、必ず先鋒が不戦敗の状態から始まることになります。普通に考えて、不利ですよ。結果は・・・、見事に優勝しました。負けは先鋒不在による不戦敗のみ。一番印象に残ったのは、4 C の内園翔太君 (団体戦にのみ出場) の都城高専戦でしょうか。試合開始直後、私がビデオ撮影にちょうどいい場所を探しているうちに、相手を捕まえてぶん投げていました。

短くも濃厚な令和 3 年度の柔道部物語。ちなみに、来年度の九州沖縄地区高専大会の会場は鹿児島です。当然、いろいろと期待したくなってしまいますよね。





全国高等学校選抜クライミング選手権大会
鹿児島県予選 第一位

スポーツクライミング

電子制御工学科 2 年 沼田 龍

みなさんはスポーツクライミングという競技をご存知ですか？昨年、開催された 2020 東京オリンピックの新種目にも選出され、耳にしたことがある方もいるかもしれません。詳しく知らない方も多いと思いますので、簡単に説明します。スポーツクライミングには 3 つの種目があります。1 つ目はボルダリング。下にマットが敷いてあり、ロープは付けずに 5m ほどの壁を 4～5 コース登ります。登ったコースの数を競う種目です。2 つ目はリード。15m ほどの壁をロープを付けて登ります。登った高さを競う種目です。私はこの 2 つをメインで競技しています。3 つ目のスピードは、15m ほどの壁をロープを付けて登り、速さを競う種目です。

私は 12 月に埼玉で開催された高校選手権（リード競技）に出場しました。中 2 以来、3 年ぶりの大舞台でしたが、先輩から教わったいくつかの「心得」

（ほぼ根性論）を気に留めていたこともあり、思いのほか緊張もせず、リラックスして競技を行えた気がします。自分の持っている粘り強いパフォーマンスを最大限に発揮して戦えました。それでも成績が振るわなかったのはまだまだ力不足だと思いますし、本当に悔しいです。この大会で見つけた課題を改善できるよう練習を重ね、来年、最後の高校選手権で決勝進出を目指します！



全国高等学校選抜クライミング選手権大会
鹿児島県予選 第二位

高校選手権と成長

電子制御工学科 1 年 愛甲 裕大

こんにちは。スポーツクライミング競技の鹿児島県の強化選手として活動させていただいております愛甲です。

僕は昨年 12 月 25 日、26 日に開催された第 12 回全国高等学校選抜スポーツクライミング選手権大会に参加させていただきました。この大会は埼玉県で開催され、リードという種目で、全国各地の高校生が参加し、僕にとって初めての全国大会でした。

僕はこの大会で、成長したと思う点があります。それは、大勢の人が見ていても、落ち着いて、競技に集中する、という点です。大勢の人が見ている前で登るのはとても緊張しました。僕は今までの大会では、次の一手が出なくなってしまうと焦ってしまい、落ちてしまうということがよくありました。しかし、今回の大会では次の一手が出なくなっても、落ち着いて、息を整えながら、集中して登ることが

できました。

今回の大会では 81 人中 70 位とまだまだ入賞するには遠すぎる結果となってしまいましたが、人前でも落ち着いて登ることができるようになり、良い経験ができて良かったと思います。

僕はまだ一年半ほどしかクライミングを経験していませんが、日頃の練習や、トレーニングをしっかり行い、先輩や、全国大会で見た強い選手達に追いついていい結果が出せるようになりたいです。

今後も頑張りますので応援よろしくをお願いします。





土木学会令和3年度全国大会
第76回年次学術講演会 優秀講演者賞

腎臓病患者のために

建設工学専攻2年 中久保 敬悟

私は、土木学会令和3年度全国大会第76回年次学術講演会で優秀講演者賞をいただくことができました。コロナ禍の中、リモートという形で学会を開催してくださった関係者の皆様に深く御礼申し上げます。

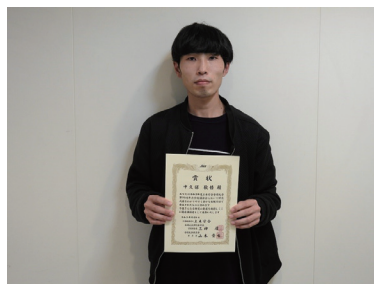
今回、「腎臓病患者にやさしい食用きのこの栽培技術の開発」という題目で発表しました。

私はもともと機能性片腎という腎臓が片方しか機能しない状態で生まれ、4歳時には膀胱尿管逆流症および水腎症を患い手術をした経験もあります。そのため腎臓は自分の中で切っても切れない存在であると感じていました。

現在、国内においても高齢化や生活様式の変化によって自分のように腎臓が良くない人々である「慢性腎臓病」の患者が増加しています。腎臓病患者は腎機能の低下によりカリウムが排泄できなくなりま

す。そのため患者はカリウムによる食事制限を受けるため、従来の食料生産システムにおいて生産された食品を安心して食べることができない状況にあります。

このような背景から専攻科での研究では、私のように腎臓が良くない人々の助けになりたいと考えました。そこで腎臓病患者のための食料生産システムを構築するべく、山内先生のご指導のもとで、低カリウムきのこの栽培技術の開発を2年間行ってきました。これまでも何度か学会発表をしましたが、その時はこの研究の重要性を伝えきれず、やるせない思いもしました。その経験もあり、今回はどのようにしたら相手に伝わるかを考えて発表を行いました。その結果、優秀講演者賞という形で研究成果が認められたことを大変うれしく思います。



令和3年度デザインパテントコンテスト
優秀賞

キーボード

電子制御工学科5年 栗巢 柊葉
文責 福添 孝明（担任）

学生が卒論執筆等で多忙な時期に執筆依頼を受けましたので、担任が本人へ聞き取りした内容を基に書かせて頂きました。

デザインコンテストに提出した「キーボード」という内容が優秀賞として評価されました。今回は約700件の申請から30件が優秀賞として評価されています。

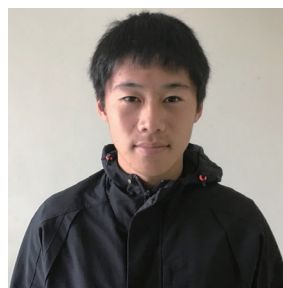
提出する機会となったのは、5年生の選択科目「知的財産概論」です。出願することは予定として聞いておらず、最近の3時間ぐらいの演習の中で思いついたそうです。最初は全くアイデアが出なかったらしく、普段良く使っているキーボードの改善に取り組もうと考えたそうです。

出願前なので詳細は書けませんが、長年使われているデバイスを現在の考え方で一から考えてみたら

どうなるのだろう？と思い、密集させないようにして、押し倒す感じで使える様にして、皆が良く使っている物と融合させたら、普段はそれを使っていない方でも使いやすいデザインになったそうです。これを読んで詳細を知りたくなった人は、製品化された際に購入してあげてください。

ちなみにそのアイデアを提出書類にする際には、2年次に実施している設計製図Ⅱで学んだCADが大いに役立ったとのこと。何処で何が役立つかわからないものです。

他の提出者は、標題も凝って命名している様ですが、栗巢君は分類名を書く項目と誤っていらしく、「キーボード」と書いてしまったそうです。その自然な姿が自然な発想につながり、受賞に繋がったのかな？と思いました。





全国都道府県対抗 e スポーツ選手権 2021
全国オンライン本大会 ベスト8

e-Sports を通して

電気電子工学科5年 山迫 海渡

私は一昨年（2020）と昨年（2021）の国体の e-Sports 競技「パズドラ」部門において、ともに鹿児島1位、全国ベスト8の成績を収めてきました。

私は、中学一年生の時に部活の先輩に勧められて「パズドラ」を始めました。最初は暇つぶし程度にやっていたのですが、高専に入学してから、自分より上手な友達に出会い、それから SNS を活用してのプレイを始めるなどのプレイスタイルが変わっていきました。4年生の時にパズドラが国体の種目に加わることを知り、遊び感覚で予選に参加したところ鹿児島で1位通過できたことが私の e-Sports としてのパズドラの始まりです。

e-Sports としてゲームをするのは普段の遊びでやるゲームとは違い大会で成績を残すことを目的としてゲームをプレイするのはやりがいを感じました。ですが、やはり私の本業は高専での勉強でしたので、

両立が難しいものもあったり、モチベーションを保つのが難しい時期もありました。ですが、国体を通して、有名な方と繋がれたり、知名度が上がってきているのを実感し、鹿児島でトップを取れているという成績から、ゲームのやりすぎで単位を落とすなど恥をかくことはできないと思うようになり、勉強の時とゲームをする時の切り替えをしっかりとるようになりました。これからも e-Sports としての活動、勉強との両立に励んでいきたいです。



大会等入賞一覧

◎九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会（代替大会）

開催日 令和3年11月5日～12月19日

（1）サッカー部

優勝

（2）バドミントン部

男子団体 優勝

男子ダブルス 優勝 松永 幸丸 岸本 海兎

男子ダブルス 準優勝 谷山 嘉隆 相葉洵之介

男子ダブルス 第3位 北迫 生海 宮里 七星

男子シングルス 準優勝 谷山 嘉隆

男子シングルス 第3位 松永 幸丸

（3）ハンドボール部

優勝

（4）柔道部

男子団体 優勝

男子66kg級 準優勝 内園 春輝

男子73kg級 準優勝 川畑 賢志郎

男子73kg級 第3位 藺田 清ノ介

（5）バレーボール部

準優勝

◎第7回九州沖縄地区高等専門学校弓道大会

開催日 令和3年7月10日

女子団体 準優勝

男子団体 第3位

女子個人 第3位 福元 理桜

◎第54回全国高等専門学校サッカー選手権大会

開催日 令和3年12月14日～17日

会場 ナショナルトレーニングセンターJヴィレッジ
成績 優勝

◎第56回全国高等専門学校体育大会（バドミントン）

開催日 令和3年12月4日～5日

会場 一関市総合体育館

成績 男子団体 優勝

◎第54回鹿児島県高等学校新人バドミントン競技大会

男子団体 第3位

◎全国高等学校選抜クライミング選手権大会鹿児島県予選大会

第1位 沼田 龍

第2位 愛甲 裕大

◎第15回高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト

チーム部門 特別賞 工業英検賞

◎第54回九州沖縄地区国立高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト

暗唱部門 準優勝 永谷 玲葉奈

◎6th STI-Gigaku 2021

Best Research Presentation Award 仮屋園 恵

◎土木学会令和3年度全国大会第76回年次学術講演会

優秀講演者賞 中久保 敬悟

◎令和3年度デザインパテントコンテスト

優秀賞 栗巢 柊葉

優秀賞 満田 にこ

◎令和3年度第57回建築設計競技

学校賞

金賞 細川 爽楽

銅賞 宇治 小春

審査委員長特別賞 宮原 慎之助

◎令和3年度廃棄物資源循環学会九州支部研究ポスター発表会

優秀ポスター発表賞 末満 虎之介

◎デザコン呉2021

空間デザイン部門 審査員特別賞 福元 恋彩瑠

◎Japan Seminar on Technology for Sustainability 2021 (JSTS 2021)

持続可能な社会構築への貢献のための科学技術に関する日本セミナー2021

THE RESEARCH AWARD

(TEAM1 "EDUCATION: SOLUTION TO MANY")

下井倉 諄施 (TEAM1)

THE PRESENTATION AWARD

(TEAM3 "～ EARTH AND US ～")

中島 秋斗 (TEAM3)

THE SDGs AWARD

(TEAM7 "SEEING SEA-PLASTICS")

入尾野 智紀 (TEAM7)

◎全国都道府県対抗eスポーツ選手権2021全国オンライン本大会

ベスト8 山迫 海渡

◎全国都道府県対抗eスポーツ選手権2021MIE大会パズドラ部門

九州・沖縄ブロック代表予選

準優勝 山迫 海渡

学生表彰者リスト

◎スポーツ賞

○団体の部

バドミントン部	第 56 回全国高等専門学校体育大会バドミントン競技兼 第 45 回全日本高等専門学校バドミントン選手権大会 男子団体	優勝
	令和 3 年度九州沖縄地区高等専門学校体育大会バドミントン競技代替大会 男子団体	優勝
	第 22 回全九州高等学校バドミントン高鍋大会 男子団体	第 3 位
ハンドボール部	第 58 回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会 ハンドボール競技代替大会	優勝
サッカー部	第 56 回全国高等専門学校兼第 54 回全国高等専門学校 サッカー選手権大会	優勝

○個人の部

機械工学科 2 年 岸本 海苑 電子制御工学科 1 年 松永 幸丸	令和 3 年度九州沖縄地区高等専門学校体育大会 バドミントン競技代替大会 男子ダブルス	優勝
電子制御工学科 2 年 沼田 龍	令和 3 年度国民体育大会スポーツライミング競技 鹿児島県代表選手選考大会 少年男子の部	第 1 位
電子制御工学科 1 年 愛甲 裕大	令和 3 年度国民体育大会スポーツライミング競技 鹿児島県代表選手選考大会 少年男子の部	第 2 位

◎文化賞

○団体の部

高校生向け設計競技応募 プロジェクトチーム	令和 3 年度第 57 回建築設計競技	学校賞
全国高専英語 プレゼンテーション コンテスト鹿児島チーム	第 15 回全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト チーム部門	特別賞 「工業英検賞」

○個人の部

都市環境デザイン工学科 3 年 細川 爽楽	令和 3 年度第 57 回建築設計競技	金賞
都市環境デザイン工学科 3 年 宇治 小春	令和 3 年度第 57 回建築設計競技	銅賞
都市環境デザイン工学科 3 年 宮原 慎之助	令和 3 年度第 57 回建築設計競技	審査委員長 特別賞
都市環境デザイン工学科 5 年 飯屋園 恵	6th STI-Gigaku 2021	Best Research Presentation Award
建設工学専攻 2 年 中久保 敬悟	土木学会令和 3 年度全国大会 第 76 回年次学術講演会	優秀講演者賞
都市環境デザイン工学科 5 年 福元 恋彩瑠	デザインコンペティション 2021 in 呉 空間デザイン部門	審査員特別賞
電気電子工学 3 年 永谷 玲葉奈	第 54 回九州沖縄地区国立高等専門学校英語 プレゼンテーションコンテスト 暗唱部門	第 2 位
電子制御工学科 5 年 栗巢 柊葉	令和 3 年度デザインパテントコンテスト	優秀賞
情報工学科 5 年 満田 にこ	令和 3 年度デザインパテントコンテスト	優秀賞

◎特別賞

○団体の部

電気電子工学科 5 年 山迫 海渡	全国都道府県対抗 e スポーツ選手権 2021MIE 大会 バズドラ部門九州・沖縄ブロック代表予選	準優勝
	全国都道府県対抗 e スポーツ選手権 2021 全国オンライン本大会	ベスト 8
サイバーセキュリティ ボランティア	情報セキュリティの必要性等について、県内小中学校へ出向き説明を行う ボランティア活動を行った	

学生表彰の集合写真



令和3年度第1回学生表彰



令和3年度第2回学生表彰(スポーツ賞)



令和3年度第2回学生表彰(文化賞及び特別賞)

濃密な一年

電子制御工学科4年 橋本 拓磨

学生会長の橋本拓磨です。今回この文章を書くにあたり、今までの出来事を振り返ってみました。私は、4年生とは最も大変な時期であるとともに、様々なことに気づきと楽しさを与えてくれる学年であると考えます。私自身4年生になり、様々な行事ごとにおいて指示を受ける側から指示を出す側へととなり、体というよりは頭を使って物事を処理することが増えました。また、4年生は本格的に進路のことについて考えなければならず、より多くの悩みともぶつかります。しかし、4年間過ごしてきた仲間や、先生方など気軽に話せる相手や相談する相手も増え自分の糧や助けになってくれることなのでしょう。

このなかで一つ学生会のお話について紹介したいと思います。学生会では主に、校内放送や校門での挨拶、花の水やりなどの学校における風紀面における意識の向上や、より明るい学校づくりのための活動、学校行事における司会進行や準備、さらには会計面まで関わっています。この仕事の中でも特



に、学生総会やリーダー研修など前期に行われる行事が主な活動となり、他の活動は定期的に行われるものとなっています。

この中で私が特に経験として大きかったことは、人前で話せることと定期的な放送による文章力の向上です。人前で話すことは難しく言葉がすらすらとは出てきません。しかし、これは経験を積むことで徐々に慣れていくものであるということが経験することで感じる事が出来ました。今まで以上に校長先生や先生方が人前ですらすらとお話が出来る姿に尊敬の念を感じ、自分の学びにもなっています。

皆さんも何か貴重な経験ができることや何かを指揮する立場になるときは臆することなく積極的につかみ取りに行くことをお勧めいたします。

体育祭を終えて

都市環境デザイン工学科4年 丸尾 成央

本年度、体育祭実行委員長を務めさせていただきました丸尾と申します。鹿児島高専体育祭は第59回を迎えました。本年度は昨年同様、コロナウイルス感染拡大の影響によりギリギリまで高専祭の開催自体が危ぶまれていました。北園先生をはじめとした教職員の方々のご協力もあり、無事開催する事が出来ました。また、半日開催という条件付きではありましたが観客の動員も可能にして下さいました。実行委員・応援団長・櫓隊長のモチベーションにも繋がり、本当に感謝しています。学生一人一人が本気で楽しめる高専祭を作り上げるために、実行委員を中心に約1年をかけて準備をしてきました。4月から実行委員・応援団長・櫓隊長で何度も集まって話し合いを行い、コロナウイルスの感染状況が変わる度に実施計画を立て直しました。半日開催ということもあり、プログラムや競技内容にはとくに頭を抱えました。昨年の体育祭の反省を元に、感染リスクを考慮した競技を一から考え直し、工夫しました。また、観客の動員についても対策を考



えなければなりませんでした。これまで無かったことを新しく作り上げることは、とても難しく運営も大変でした。入念な打ち合わせやリハーサルのおかげで、本番は大きな問題もなく大成功に収める事が出来て本当に良かったです。

私は、高専祭は学科だけでなく学年の壁を越えて縦の繋がりを築くための行事だと考えています。これまでの体育祭では、学年ごとに競技を実施していました。それでは、クラスの中だけでの関係で終わってしまいます。他学年と接触できるせっかくの機会を生かすために、本年度は全ての競技を学科対抗に変えました。その結果例年と比べて、高専祭を終えてからの学校生活において、他学年と接触する学生が多いように感じます。来年も引き継いで欲しいなと思っています。世界の安全が戻ったら、全ての保護者の方や地域の方を含め、もっともっと高専祭を盛り上げて欲しいです。

コロナの中の文化祭

情報工学科3年 東 勇太

(令和3年度文化祭実行委員長)

今年の文化祭は、コロナの影響を受けて制限が多かった中でしたが満足できるクオリティのものを作ることができたと思います。最初は実施できるかどうか不安でしたが、約1ヶ月前に実施が決まりそこからかなり忙しい毎日でした。文化祭実行委員の各局長達と連携を取り合い、みんなお互いに残っている仕事を見つけ助け合いながら打ち合わせや制作など文化祭を盛り上げられるように全力をつくしました。

パンフレットもかなりクオリティが高く、広報局の腕が光った仕事ぶりでした。露店や展示、ステージ企画も色んなジャンルの出し物を用意して会場を盛り上げてくれました。体育館前の各応援団長のパネルは初の試みでしたが、設営局が忙しい中頑張ってくれました。文化局や会計局も表には出ていませんが運営を大きくサポートしてくれてとても心強かったです。前日までギリギリで、ヒヤヒヤしましたが、みんなのお陰で無事当日を迎えることができました。私も実行委員長として各局の潤滑油となってサポートするためにみんなと連携を取り合うことを意



識していました。

当日の運営では特に準備と片付けが去年までと比べてかなりスムーズに進められたと思います。事前に流れの確認や各仕事の説明に力を入れてきたので、文化祭が終わったあとかなり達成感を感じました。また今年初めて実施した1年生の合唱(写真)は、とても好評でこれからは新たな伝統として繋げていってほしいと個人的に思います。あと1つ贅沢を言わせてもらえれば、今年使わなかった第1体育館やグラウンドをもっと有効に使えばさらにコンテンツを増やせたのかもなあ、という心残りもあります。このような今年の良い点や悪い点、チャレンジして欲しい点などを来年の実行委員に繋げて、今年を超えることができるようにアドバイス・応援していきます。令和3年度の文化祭実行委員長というとても素晴らしい経験をさせていただき一生の経験を作ることができました。

ありがとうございました。

学生会報道局の活動

情報工学科4年 川添 凜香

学生会報道局長の川添凜香です。学生会報道局では、学生会便りの発行や部活動のPR動画制作を行っています。

学生会便りとは、本年度から始まった新たな取組の一つで、学生会の活動を知ってもらうために学生会が主体となって行った活動を紹介するポスターです。学生会の活動の他に部活動や学校行事の様子などについても書かれています。今年は、4回の発行を目指しており、現在第3号まで発行しています。

学生会便りを作成するために、学校行事の際に学生会の仕事をしている様子の撮影や会長などにインタビューを行っています。なるべく多くの写真が必要になるため、大変な活動ではありますが、その分とてもやりがいを感じています。今まで学生会がどのような活動をしていたか知らない人が多いのでは

ないかと思います。このポスターがきっかけで学生会についてより多くの人に知ってもらえると嬉しいです。

第1号ではクラスマッチ、学生会の仕事紹介、会長に今後の意気込みについてのインタビューを掲載しました。学生会の活動をより多くの方に知っていただけるようにこれからも学生会便りを作成しますので、見ていただけると嬉しいです。

学生会便り No.1

今年から学生会報道局が学生会便りを作るようになりました！
よろしくをお願いします！

クラスマッチ
4月に行われたクラスマッチの優勝チームです！
おめでとうございます！



令和3年度学生会

学生会の仕事の一部を紹介します



会長インタビュー 4S 橋本 拓磨 君

今回のインタビューを受けるにあたり、これまでの学生会活動を通して、学生会役員、学生会員としての様々な経験を立えました。それは仕事、役目を果たして引き継ぐことです。今年までで学生会役員や部活動の経験、いじめ防止委員会など様々な活動をしてきました。その中で、人を動かすために多くの経験が生まれました。計画は前もって立てるということの重要性など多くの経験と学びを得ることができました。これは今後の大きな糧となり私を支えてくれるでしょう。仕事、役目を果たして引き継ぐと、自分のみならず周りの仕事も減るといっても過言を及ぼすことができます。ですからこれからはより積極的、活動的に仕事を果たしていくことが目標です。

寮改革

寮長 電子制御工学科 4年 入尾野 智紀

皆さん、こんにちは。寮長を務めております、電子制御工学科4年の入尾野智紀です。私は、昨年1月中旬から寮長としていろいろな業務を行いました。その中でも、特に力を入れたことを2つ挙げてお話しいたします。

1つ目は、志学寮の裏門の開放についてです。裏門は私が1年生の前期中に、閉鎖されました。原因としては、寮生の「裏門からの飛び出し」や「真孝公園を自転車で突っ切る」、「裏門を利用した送迎及び荷物搬入」等の行動により、地域住民の方々にご迷惑をお掛けしていたからでありました。このような課題を解決するために、副寮長達と解決策を熟考し、全寮生を各クラスごとに裏門使用についてのオリエンテーションを行い、対策いたしました。その上で、寮務主事と裏門開錠の交渉を行いました。すると、初期段階としては、「毎週月曜日の15:00～19:00、潜り戸のみの使用、地域住民からの苦情が1件でも来た場合は継続的な施錠を行う」という制限のもと裏門の開錠に成功しました。しかし、寮生全体の協力により、地域住民の方々からの厳しい声なく、寮務主事から「毎週月・火曜日の15:00～19:30、毎週土曜日の9:00～19:30までの開錠」の許可を頂けました（11月現在）。次期寮長には、裏門完全開放を目指してほしいところです。

2つ目は、寮内での献血啓発活動についてです。皆さん、

ご存じの通り今年、昨年ともにコロナウイルス感染症が流行しました。その影響で「献血をしてくださる方が少ない」という情報を日本赤十字社さんのホームページより拝見いたしました。それを見た時、寮内での啓発活動ができることに気が付きました。具体的な啓発活動としては、赤十字社さんと相談して、鹿児島高専付近での献血の機会を設置していただき、それを献血のチラシ配布と共に寮内放送で寮生全体に周知させました。その活動を6月と11月の計2ヶ月行った結果、6月は寮生での参加が9人でしたが、11月は約20人と少し増加しました。啓発活動の効果があったのか、それとも寮生自体の自主性が向上したのかは分かりませんが、参加者自体が増えたことはよいことだという風に感じております。



献血中満面の笑みを浮かべる竹下君

最後になりますが、私は、寮長に就任してこのような取り組みをやった良かったと感じております。これらの取り組みは自分1人で行ったわけではなく、寮生会、寮関係者の皆さんの協力があったからこそできたものです。この場を借りて感謝申し上げます。1年間ありがとうございました。

副寮長の業務紹介

副寮長 電気電子工学科 4年 中野 瑠星

副寮長は現在3人いて、寮長の補佐や会計業務、資料作成などに分担して取り組んでいます。私たちの仕事はそのほとんどが細やかなもので、寮業務について知らない方からすると地味なように感じるかもしれません。しかし、そのような地味な仕事は寮生活を支えています。今回は私が特に大事だと思っている仕事を2つほど紹介します。1つめに、寮長の補佐です。寮生の声を聞き、それを実現するのが寮長の仕事です。このために、「意見を集めるためのアンケートの作成、集計、こういった形で実現させるのかについての具体的な案出し」という作業があり、私達はその補佐をしています。

2つめに資料の作製です。寮では未だインターネットを用いた連絡手段は用いられておらず、放

送や配布物での情報共有を行っています。放送も資料配布も現在の寮においては確実性がない手段であり、更に訂正が難しくもあります。そんな中でより確実性を持たせるために、「誰が読んでも（聞いても）わかる」を心がけて放送スクリプトや配布資料を作成しています。

どちらも、皆さんの寮生活をより良いものにするため大切な仕事です。こういった仕事に低学年のうちから関わったことは、私の自信に繋がっています。さらには、画像・動画編集、資料作成のスキルも身に付けることができたので、寮生会にはとても

感謝しています。私の任期は残り僅かとなってしまいましたが、最後まで精一杯頑張らせて頂きます。



寮生会 文化局の仕事

都市環境デザイン工学科4年 川畑 賢志郎

こんにちは。私は寮生会の文化局長の川畑賢志郎です。今回、高専だよりに寮生会として文を書く機会を頂いたので、文化局の仕事と寮生会について書こうと思います。

文化局の仕事は、主に寮内での行事の企画、運営です。寮での行事には、七夕パーティー、留学生パーティー、新入生歓迎マッチや、寮の一大イベントである寮生パーティーもあります。

寮の行事は豊富ではあるのですが、その裏にある行事の企画や運営はとても大変です。行事の時期になればほかのどの寮生会の局よりも忙しい自信があります。ですが、企画をみんなで考える時はとても楽しく、企画が成功した時の達成感はとても大きいので、やりがいを感じてくれる局だなと実感しています。次に、寮生会についてです。僕が一般寮生の頃は、寮生会にあまりいいイメージを抱いていませんでした。3年生の頃寮生会に勧誘され、流れで入った感じではありましたが、そこでは様々な経験をさ



せてもらったり、寮生会役員みんなはあたたかい人達が多く、居心地の良い組織でした。本当に入ってたかったです。自分を寮生会に入れてくださった先輩方、同級生には本当に感謝しています。最後の仕事である寮生パーティーは大成功させようと思います。

拙い文章でごめんなさい m(__)m

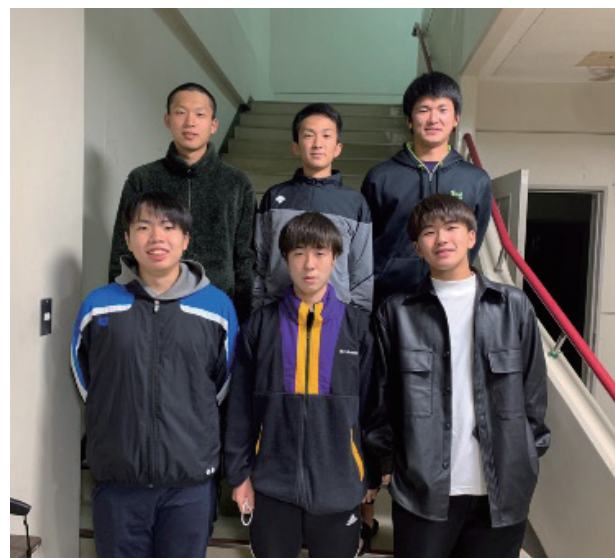
寮生会 補佐

機械工学科3年 吉元 大悟

皆さんこんにちは。補佐を務めております3年機械工学科の吉元大悟です。今回高専だよりをかくにあたって、補佐の仕事内容や魅力を伝えていきたいと思います。

初めに寮生会補佐について紹介します。補佐は、3年生、2年生それぞれ3人ずつの計6人で活動しています。先輩、後輩に関わらず6人全員仲が良く和気あいあいと仕事をしています。

次に仕事内容について説明します。補佐の主な仕事は朝点呼の集計です。平日の朝は、補佐役員を中心に班長がとった点呼を集計し、寮生全員が自室にいるか確認します。点呼にでなかった人は、点呼不在とし呼び出し寮内にいるか所在を確認します。新型コロナウイルスが流行する以前は、グラウンド点呼といい寮生全員がグラウンドに集合し点呼とったあとラジオ体操をして解散する形をとっていましたが現在は、密を避けるため寮生が自室のドアの前になつて班長が確認する整列点呼を行っています。整



列点呼時は、点呼不在者がほとんどいませんがグラウンド点呼になると外にでるしんどさからか、点呼不在者が多くみられます。コロナウイルスが収束し、グラウンド点呼になったときに、点呼不在者を無くするのが、補佐としての今後の課題です。

補佐は寮生会の部署の中でも仕事量が多く大変な部署です。しかし、やりがいのある仕事ばかりです！これからも寮運営のためにがんばります！

部活動紹介

硬式野球部

- ①部長・副部長：[高野連チーム] 松尾洸太郎（2S）末永歩輝（2S）馬場悠斗（2I）、[高専チーム] 林慶政（5S）
- ②顧問・コーチ：田中智樹 橋口博芳 川添敦也 アニス・ウル・レーマン
- ③活動内容：ノック、フリーバッティング、紅白戦
- ④今年一番の思い出：夏の敗戦後の1ヶ月半はとても大切な時間でした。このままでは次の大会でも同じことを繰り返すだけになってしまうと皆で反省点を出し合いました。まずは身の回りの道具を大切に、全員の意識を変え成長することができました。



男子バスケットボール部



- ①部長・副部長：牧之瀬大良 坪口貴斗 竹宮幸紀
- ②顧問・コーチ：前蘭正宜 図師淳一
- ③活動内容：毎週火曜日と木曜日以外の日で練習しています。
- ④今年一番の思い出：長崎県佐世保市で行われた九州高専大会に出場し、3位に入賞したことです。

女子バスケットボール部

- ①部長・副部長：吉原侑里 吉川音々
- ②顧問・コーチ：塩盛秀彰 渡辺創 鞍掛哲治 松下静香
- ③活動内容：バスケットボールを楽しみながら勝利を目指す
- ④今年一番の思い出：高専大会で初勝利をおさめたことです。私たちは他高専に比べて全体の人数も少なく、また下級生が中心のチームです。練習の人数もなかなか揃わない中での大会でしたが、勝つことができ、部員同士の仲もこれまで以上に深まったと感じています。



バレーボール部



- ①部長・副部長：藤田隼輔 伊津野晃大 吉松大吾
- ②顧問・コーチ：拜田稔 田畑隆英 片平智仁 池田匠児
- ③活動内容：部員36人で、全国高専大会を目標に活動しています。
- ④今年一番の思い出：全国高専大会代表決定戦決勝での、有明戦です。結果としては惜しくも負けてしまったのですが、良い経験になりました。コロナ禍という限られた時間の中でチームを作ることの大変さを、改めて実感しました。コロナ禍だからこそ、今までよりもチーム一丸となって活動できたと思います。

剣道部

- ①部長・副部長：川添桜子 吉留颯俊
- ②顧問・コーチ：小田原先生 井手先生 節政先生 他1名
- ③活動内容：日々剣道の修練を積み、各種大会に出場する。
- ④今年一番の思い出：今年は5月にあった始良・伊佐地区高体連の個人戦にて、女子の部で優勝、男子の部で3位入賞という結果を残せたことです。来年は、個人戦だけでなく、団体戦でも良い結果が残せるように全員でさらに切磋琢磨していきたいと思っています。



空手道部

- ①部長・副部長：石室屋拓 富満蓮司
- ②顧問・コーチ：中村先生 松浦先生 飯塚コーチ
- ③活動内容：模擬試合 ミット練習 基礎トレーニング など
- ④今年一番の思い出：今年はコロナウイルスのため大会に出ることが出来ず、部内でトーナメントをすることになりました。トーナメントでは白熱した試合を行うことが出来ました。試合後には各自の弱点を知ることが出来、有意義なものになりました。今後も大会に向け頑張っていきます。



柔道部



- ①部長・副部長：川畑賢志郎
- ②顧問・コーチ：野澤宏大 村上浩
- ③活動内容：打ち込み、投げ込み、乱取り、筋トレ、ランニング
練習していると背中がデカくなります。逆立ち歩きできるようになります
- ④今年一番の思い出：とても強い学生が入部してくれたので、例年より練習に熱が入りました。思い出づくりもしていきたいです。

卓球部

- ①部長・副部長：福元唯斗 二木拓海
- ②顧問・コーチ：玉利先生 入江先生 堤先生
- ③活動内容：それぞれ個人の課題練習、部内の試合
- ④今年一番の思い出：今年の夏に予定されていたインターハイ予選や高専大会が新型コロナウイルスの影響で出場できなくなり、大会がありませんでした。12月19日にある九州高専大会代替大会でしっかり結果を出し、来年の高専大会でのシード権を獲れるようにこれから頑張ります。



陸上競技



- ①部長・副部長：寶來鷹大
- ②顧問・コーチ：古川翔大 新徳健 山内正仁 柳詰豪 内文夫
- ③活動内容：自己ベスト更新や大会で記録を残すために日々頑張る
- ④今年一番の思い出：「今年はコロナ禍でも盛り上がる文化祭を目指したい」と実行委員の方にお声をかけていただき、私が入部して5年で初めて露店を出すことになりました。飲食店が出せない状況で全員に楽しんでもらえるように、全員で試行錯誤しました。写真は去年の歓迎会のすいかわりです。来年はBBQしたいな～。

弓道部

- ①部長・副部長：宇都琢 阿蘇谷清流 原田健翔
- ②顧問・コーチ：吉満先生 白坂先生 豊平先生 川井田コーチ
- ③活動内容：ゴム弓、素引き、巻き藁、的前、立射
- ④今年一番の思い出：今年一番の思い出は、高専大会です。去年は、新型コロナウイルス感染拡大のため中止となりましたが、今年は2年ぶりにリモートでの開催となりました。結果は、九州大会は2位通過、全国大会では成績は振るいませんでしたが、大会が例年より少なくなっている中、思い出になる大会となりました。



サッカー部

- ①部長・副部長：長尾賢志朗 九万田璃空
 ②顧問：北蘭 竹下 池田 山田 國谷 椎 木原 精松
 ③活動内容：僕達サッカー部は、部員 80 名で、「疾風勁草」というスローガンの元、全国高専大会優勝に向け活動しています。また、リーグ戦走破という目標も掲げ、今年は大学生年代の学生リーグ優勝、高校年代のトップリーグ一部残留という結果を残しました。
 ④今年 1 番の思い出：5 年にとってサッカー人生の締めくくりとなるこの年に、大好きな仲間と全国高専大会で五連覇を達成したこと。



水泳部



- ①部長・副部長：入江一馬 福永連太郎
 ②顧問・コーチ：鎌田清孝 安井賢太郎 宮田千加良 赤塚道信
 ③活動内容：スイム、筋トレ、夏合宿、その他（キャンプ、BBQ）
 ④今年一番の思い出：今年はコロナの為、九州大会が中止になり、前期はスイム、後期は筋トレを行い、体力や技術向上に努めた。また、夏合宿は例年より 1 週間短い期間であったが、楽しみながら練習をした。合宿最終日には赤塚コーチ主催で記録会を行い、練習の成果を試す機会となった。今後も感染対策をしながら活動したい。

ソフトテニス部

- ①部長・副部長：出籠菰人 川元隆太郎
 ②顧問・コーチ：東雄一 安楽四郎 今村成明 島名賢児 小玉健人 有村峻
 ③活動内容：全国高専大会優勝を目指し、日々練習に励んでいます！
 ④今年一番の思い出：今年は新型コロナウイルスにより、大会等に出場できなかったことも数多くありました。しかし、そのコロナ禍においての練習に対し部員全体で工夫し、ソフトテニス部から感染者を出すことなく部活動を行えたことが、今年全体で一番の思い出だと思います！



テニス部



- ①部長・副部長：梶原涼世 富田翔也
 ②顧問・コーチ：屋地康平 奥高洋 中才恵太郎 岸田一也
 ③活動内容：ラリーやサーブ練習等の基礎練習や応用練習
 ④今年一番の思い出：今年一年を振り返ってみるとコロナのため九州沖縄地区高専大会が中止になったり、部活動の休部期間が長かったりなど残念な一年だった。しかし、今年是一年生が 8 人入部するなど嬉しいこともあった。テニス部としては、来年度の九州沖縄地区高専大会団体優勝に向けて頑張りたいと思う。

バドミントン部

- ①部長・副部長：新留颯志郎（5E）谷山嘉隆（4E）
 ②顧問・コーチ：堂園一 新田敦司 小原裕也 佐藤正和
 ③活動内容：日々の練習、練習試合、大会出場など
 ④今年一番の思い出：今年度の全国高専大会で創部初の全国制覇を成し遂げることができました。2 年間コロナ禍で練習が出来ず、欠場した大会もありましたが、部員全員で日本一を目指し続けました。バドミントン部が日本一になったあの瞬間は部員の心に一生残る最高の瞬間だったと思います。



ハンドボール部

- ①部長・副部長：安田祥矢 堀之内太凱
- ②顧問・コーチ：白石貴行 熊華磊 谷口康太郎
- ③活動内容：ハンドボール競技を通じた体力増進と精神鍛錬
- ④今年一番の思い出：九州高専大会代替大会での優勝です。コロナで九州高専大会が中止になりましたが、代替大会が開催された場合に備えて気持ちを切らさずに練習を続けてきました。代替大会では全員で点をとって接戦を制しました。12/22から全国高専大会@盛岡市に出場するので全国制覇を目指して頑張っています。



極真空手部



- ①部長・副部長：小永吉隆晴 吉本大吾
- ②顧問・コーチ：瀬戸山康之 濱田敏幸
- ③活動内容：活動内容は主に、筋トレやランニングなどの体づくり、ミット打ちなどを行っています。組手などの実践形式での練習は濱田先生がいらっしゃった時に行っています。
- ④今年一番の思い出：極真空手部は、火・水・木曜日の週3活動しています。大会などには出場してはしてないですが、毎週部員の人々と練習できるだけですごく楽しいので、それが一番の思い出です。

ラグビー部

- ①部長：佐竹航陽
- ②顧問・コーチ：熊谷博 岩田富男 柳原哲生
- ③活動内容：普段の基礎練習（週4）・高専大会への参加・高校総体への参加（他校との合同チーム）
- ④今年一番の思い出：
 - （プレイヤー）部員全員で大分の高専大会に出場できたこと。来年度も行けるように新入部員確保を頑張ろう！
 - （マネージャー）ホワイトデーに、部員たちからスパイクをプレゼントされたこと。サポートだけでなく、練習もいつも以上に頑張ろう！



写真部



- ①部長・副部長：伊瀬知奈那美 水口ひまり
- ②顧問・コーチ：保坂直之 三原めぐみ
- ③活動内容：部員それぞれが撮った写真を展示したり、コンテストに応募したりする活動をしています。
- ④今年一番の思い出：今年一番の思い出は、高専祭（文化祭）で写真コンテストを開催したことです。新型コロナウイルスの影響が長引いてなかなか写真を撮りに出かけることができませんが、学生から写真を募集して展示をする機会をいただけたことが嬉しかったです。

吹奏楽部

- ①部長・副部長：境田悠里 山崎将平
- ②顧問・コーチ：松田信彦 町泰樹 曾山夏菜
- ③活動内容：定期演奏会・巡回演奏の実施・学校行事での演奏
- ④今年一番の思い出：11月の定期演奏会は、卒業する5年生をはじめ、部員みんなにとって思い出深いものとなりました。昨年度は中止、今年度は延期となっており、やっとの思いで現役最後の舞台をつくることができました。唯一無二の経験と思い出が得られる吹奏楽部に入ってよかった！入部を決めた1年生の時の自分を褒めたい。



英語部

- ①部長・副部長：松下拓海 久松泰季
- ②顧問・コーチ：逆瀬川栄一 嵯峨原昭次 徳山ティータ
- ③活動内容：実践英語・英会話・英文法・発音などの学習
- ④今年一番の思い出：英語部では、今年に限らず、毎年文化祭にて英語劇を行っています。走れメロスや赤ずきんなどの物語を英語に翻訳、アレンジなどして発表しています。去年に続き今年も新型コロナの影響で、保護者の方々にご覧いただくことは出来ませんでした。来年こそは保護者の方々に披露できることを願っています！



軽音楽部

- ①部長・副部長：郡山太陽 水口ひまり
- ②顧問・コーチ：南金山裕弘
- ③活動内容：文化祭ライブ、校内ライブ
- ④今年一番の思い出：軽音楽部の今年一番の思い出は、文化祭ステージでのライブです。今年は3つのバンドが出演しました。基本各バンド単位で活動しているので、部全体として何かに取り組むことが少ない軽音楽部ですが、ステージ設営や音響関係の手伝いなど多くのことを皆で協力して出来たのはとてもいい経験になりました。



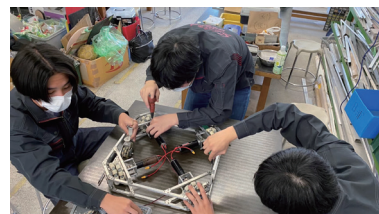
エコラン部

- ①部長・副部長：新川太寅
- ②顧問・コーチ：嶋根紀仁 榎根健史 江崎秀司
- ③活動内容：エコラン車製作
- ④今年一番の思い出：私達エコラン部は、大会で結果（燃費1000km/リットル）を残すために日々の部活を頑張ってきました。ですが、去年に引き続き今年もコロナの影響で大会に出場出来ませんでした。大会に出られなかったことは、悔しかったですが、毎日部の仲間と同じ目標を持って楽しく活動できたことが思い出です。



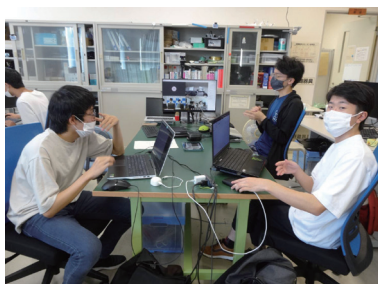
メカトロニクス研究部

- ①部長・副部長：清藤地洋（4E）坂口純寛（3S）
- ②顧問・コーチ：渡辺創 上野孝行 上沖司 岸田一也 塚田陽
- ③活動内容：高専ロボコンに出場するロボット製作
- ④今年一番の思い出：高専ロボコン当日の直前トラブル！？
本番直前まで様々なトラブルがありましたが、中でも出番前最後の動作確認中に人為的なミスにより回路から煙が出たことです。ギリギリで何とかしましたが、もう当分煙は見たくないです・・・今年度の経験を生かして、次年度こそ目指せ！両国国技館！



電子・情報・システム研究部

- ①部長・副部長：有川直輝 文榮来智
- ②顧問・コーチ：武田和大 原崇
- ③活動内容：高専プロコンに向けたアプリやシステムの開発など
- ④今年一番の思い出：高専プログラミングコンテストに加えて、文化祭の展示に力を入れています。今年は、部員が持ち寄った多くの展示物で盛り上がりました。複数の個性あふれるゲームや、オセロ AI との対戦などなど、非常に満足のいく文化祭となりました。来年は、今年よりも更に楽しめる展示を準備したいと思います。



将棋・囲碁部

- ①部長・副部長：日高勝十 山本陸
- ②顧問・コーチ：栢健一 芝浩二郎
- ③活動内容：対局、感想戦、勉強会、全国高専大会、交流会など
- ④今年一番の思い出：COVID-19の影響で活動時間の短縮など、様々な制限を受けながら活動しました。奈良県での高専大会は、鹿児島高専からの参加者が少なく不参加でした。もっと積極的に参加者を募るべきだったと反省しています。また、情報工学科棟の改修で部室が厚生会館から一般科棟磁気実験室へ一時的に移動しました。



環境創造物理研究部・物理チーム



- ①部長・副部長：東玲良 池増優吾
- ②顧問・コーチ：篠原学
- ③活動内容：モデルロケット・自動走行ロボの製作、物理実験など
- ④今年一番の思い出：今年も10月の文化祭にて展示とモデルロケットの打ち上げを行いました。5月後半からこの日まで、試行錯誤しながら製作に励んできたため、文化祭当日のやり甲斐や達成感は大きいものとなりました！来年は更に良い展示物が作れたらと思います。

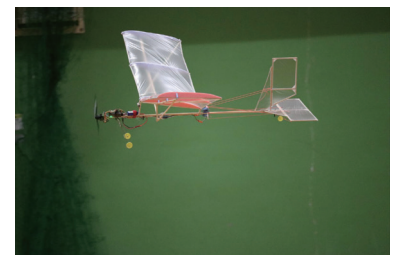
環境創造物理研究部・天文チーム

- ①部長・副部長：奈良美沙樹 大内田蒼太
- ②顧問・コーチ：篠原学
- ③活動内容：文化祭でのプラネタリウム上映、天体観測など
- ④今年一番の思い出：11月19日に部分月食の観測会を実施しました。写真は部員が撮影したものです。今回の月食は月の98%が地球の影に隠れる部分月食でした。準備中に厚い雲が空を覆うこともありましたが、その不安もよそに月は三日月のように輝き、影に隠れた部分は綺麗な赤銅色になる幻想的な月食となりました。



航空技術研究部

- ①部長・副部長：3M 竹田怜生 4M 浜野皐哉 & 4S 川畑匡史
- ②顧問・コーチ：福添孝明 橋口正平
- ③活動内容：模型飛行機の製作・飛行、その他航空関係全般
- ④今年一番の思い出：今年一番の思い出は文化祭です。活動で使用する機体の展示や、フライトシミュレーター体験を通して多くの方々に、飛行機に対して興味を持って頂くと同時に、シミュレーター上であったとしても飛行機を飛ばすことの楽しさや作る楽しさを伝えることができたと思っています。



創造設計部



- ①部長・副部長：福元恋彩瑠 向井優登
- ②顧問・コーチ：内田一平 高安重一
- ③活動内容：自由な発想のもと課題や問題点を解決するためのアイデアを構築し、形づくる部活動です。
- ④今年一番の思い出：今年は本校から初めて空間デザイン部門とプレデザコン AM 部門に参加することができました。また、校外のコンテストに出品して審査員特別賞なども受賞しています。これら日頃の活動成果を高専祭で2会場を使って発表しました。

Robogals Kagoshima の紹介

情報工学科 新徳 健

Robogals は、工学分野に興味を持つ女子を育てることを目的に、2008 年にオーストラリア・メルボルン大学の学生が設立した国際的ボランティア団体です。Robogals Kagoshima (Robogals 鹿児島) は、2017 年に日本で 3 番目の支部として、鹿児島高専の女子学生有志によって発足しました。

Robogals 鹿児島の主な取り組みは、技術者を目指す理工系女子を増やすことを目的とした、小中学生対象のワークショップの開催です。ワークショップでは LEGO 社の教育版 LEGO マインドストーム EV3 や Ozobot という小型ライントレースロボットを用いたプログラミング体験教育、MakeyMakey というマイコンを組み込んだキットを使った簡単な電気実験を行っています。また、一日体験入学においても同様のワークショップを開催しています。鹿児島県では、地理的な問題から体験学習やワークショップといった活動への参加が難しい地域や離島が多くありますが、そのような地域にも訪問・実施

していきたいと考えています。

また、Robogals メンバーの知識や技術向上のため海外との交流も行っており、2017 年と 2018 年にオーストラリアで開催された Robogals の世界会議 Robogals SINE に参加し、活動報告を行うと共に、各国の取り組みを学んできました。2017 年の SINE では、年間で一番活躍した Robogals の支部として、『Robogals Up Award』をオーストラリア本部にて受賞しました。2018 年には米国や英国の大学を訪問し小中学生の理解を助ける発問の仕方やプログラミングの教え方について学んできました。

このような取り組みが評価され、内閣府の『令和元年版 男女共同参画白書』に掲載されました。また、同年の第 3 回日産財団リカジョ賞では奨励賞を受賞しました。さらに、令和 3 年度版の中学校公民の資料集にも取り上げられました。

この 2 年はコロナ禍の影響のため、これまでのような対面でのワークショップはできていないのが現状ですが、ウィズコロナ、アフターコロナに向けて、これからも活動を続けていきます。

NEC との共同教育

教務主事 松田 信彦

本校は、令和 2 年 10 月に NEC と連携協定を結び、NEC のエンジニアと本校教員とで協力し、共同で学生の教育に当たっている。

その中身は多岐にわたり、図書館および女子寮における顔認証システムの導入と実証実験、DX プロジェクト（旧 AI 研究会）、FIWARE 講座、感情ソリューションを活用した授業改善の実証実験、特別インターンシップなど、多くのプログラムが動いている。この他にも、NEC のエンジニアによる講座（授業）や、鹿児島高専・NEC・霧島市の三者による地域共創プロジェクトも計画中である。最先端企業との共同教育は、教員だけでは教えることの難しい最新技術の動向や、技術の社会実装という観点からも、より一層の充実を目指したい。

これらの取組には、授業のようにカリキュラムの一部として学生に提供できるものと、課外活動的な要素のある取組とがある。このうち、特に課外活動の部分は、学生自らが積極的に参加する必要がある。

ただ、一部の学生を除き、積極的に参加する学生はそれほど多くない状況で、PR も含め、裾野を広げていく必要がある。NEC だからといって、情報系の学生だけを対象にしているわけではない。特に AI や情報セキュリティについては、どの学科にも、どんな分野にも必要となるからだ。

日本の最先端企業のエンジニアと直に接する機会には、高専生のレベルではほとんどない。そのようななかで、本校では幸運にも連携を通じ、様々な取組ができています。これは、学生にとって絶好の機会であり、その経験は将来必ず役に立つ。学校としてもこうした取組をますます充実させていくが、何よりも学生自身が、もっともっと積極的にいろいろな取組に参加してくれることを願っている。



DX プロジェクトの成果発表会

挑戦することでしか見えない景色

～ Global Club の取り組みを通じて～

機械工学科 5 年 下井倉 諄施

Global Club は、今年度で発足から 1 年半を迎えました。この間、およそ 50 名の学生に Global Club のイベントに参加してもらいました。今年度も相変わらずのコロナ渦でしたので、対外イベント（English Camp、スウェーデンの高校生、中国の大学生との交流会など）は全てオンラインでの実施となりました。こうしたなかでも、多くの学生にイベントに参加してもらい、文科省主催の全国の大学・高専の国際交流に関する協議会でも、本校の活動は多くの学校から好評を得ています。

私たちの活動には、“主体的に自分の人生を面白くできる学生を増やす”という最上位の目的があります。私の原体験からこの目的を立てることになりました。私はもともと 3 年生の夏まで、野球しかしてきませんでした。しかし、高校野球の引退をきっかけに何かに挑戦してみたいと思い、インドに留学していた兄に影響を受け、フィリピンのセブ島での語学留学に挑戦しました。

帰国後には、大学生向けの総合 Web メディアである“Z 大学”で Web ライターに挑戦しました。自分の体験をもとに、セブ島留学や留学全般に関する記事を作成しました（“Z 大学”と検索してみてください！留学の他にもたくさんの記事を閲覧できます！）。そこで Web やライターの、さらには動画編集の知識とスキルも習得できました。

こうした活動から日本全国に志の高い友人ができ、また他のプロジェクトで得られた繋がりをきっかけに、鹿児島でも同世代の鹿児島大学の友人や地元企業や市役所の方との繋がりができました。それがまた新たな挑戦へと繋がっています。

国際交流の話に戻ると、JSTS2021（SDGs について英語で議論するプロジェクト）や English Camp（コロナ対応について英語で議論するプロジェクト）で自分自身を高めることができました。それぞれにここでは書ききれないくらいの経験や学びがあり、できることがかなり増え、関わる人も変わってきたと感じています。

ここまで私の経験をつらつらと書いてきましたが、全てはセブ島留学に挑戦したことがスタートになっています。あの時、留学に挑戦していて本当によかったと強く思います。



スウェーデンの高校との交流会

Global Club のメンバーや説明会にきてくれた学生にはいつも伝えているのですが、私自身は国際交流を無理にやる必要はないと思っています。もちろん、グローバル化に対応する能力は必要ですし、より多くの学生にイベントに参加してほしい気持ちもあります。しかし、それ以上に、時間がたっぷりある学生時代に、部活でも趣味でもゲームでもファッションでも、何でもいいから挑戦し、行動してほしいと強く思っています。

自分の中にある“やりたい！”“やってみようかな”という心の声に従って、挑戦してみてください。周りから冷やかされたり、反対されたりするかもしれませんが、それ以上に応援してくれる人がいます。そして、挑戦してみないと分からない景色が、そこには絶対あります。

何に挑戦したらいいか分からないという人もいるかと思います。そんなときには、私たちの主催するスウェーデンの高校とのオンライン交流会などにぜひ挑戦してみてください。英語が下手でも全く問題ありません。“下手な英語でもいい、いかに自分の思ったことを伝えられるか”を Global Club では大切にしています。

英語はコミュニケーションの手段です。“もう少し勉強してから参加しよう”という学生がいますが、その時はきっといつまでも来ません。参加者を見ると、これに気付いて自分なりに英語を話そうとする人から、どんどん上達しています。

“英語に自信がない”という気持ちを誰かと共有するところから始めてみませんか。国際交流センターや代表の 4S 入尾野くんを、気軽に訪ねてみてください！



国際交流センター HP

Kagoshima-Kosen Supporting Student Dreams

のご紹介

鹿児島高専では、本年度より、学生のもつ潜在的な能力・向上心を引き出し、それらの涵養と実現に向けた支援を全学的に行うために、**Kagoshima-Kosen Supporting Student Dreams (KSSD)** を実施しています。堅い言い方になりましたが、学生たちの「こんなことをやってみたい」「こんなコンテストに出てみたい」といった夢をサポートするための取り組みです。

具体的には、(1) 学生が自主的かつ主体的に取り組むもの、(2) 本校教職員のサポートのもと取り組めるもの、(3) 高専の学生が取り組む活動として相応しいもの、という3つの条件を満たした活動に対して、必要な経費を校長裁量経費から補助しています。

今年度は、以下の活動が採択されています

- ・コンクリートコンテストへのチャレンジ
- ・サイバーセキュリティボランティア
- ・学生主体の科学アウトリーチ
- ・e-sports の認知と普及を通じた主体性のある学生の育成
- ・IoT・プログラミング教育支援用テーマ開発者育成プロジェクト
- ・高等専門学校デザインコンペティション 空間デザイン部門応募プロジェクト
- ・「コミュニティ教科書作り」ワークショップ——鹿児島高専生×伊佐市牛尾校区コミュニティ
- ・プログラミングカーの製作及びプログラム作成によるものづくりと制御の体験
- ・高校生向け設計競技応募プロジェクト
- ・学生マグネシウムデザインコンテスト

以下では、鹿児島高専 SSD で支援を受けた学生たちの声を紹介します。

「高校生向け設計競技 PJ」

『建築コンペ』

都市環境デザイン工学科3年 細川 爽楽

私たちは、授業で創造設計の課題を行っていました。自分で考えたアイデアを先生も含むグループで共有し、アドバイスをもらうことでより良いものに近づけていくという授業を毎週繰り返し図面にしてきました。自分で考えて家を作るという授業が初めてだったため、とても難しいものでした。建物の形やそれに合う配置計画、暮らしやすいライフスタイルにあったゾーニングを考えたりするため簡単にはいきませんでした。何十通りの案を出し試行錯誤する。これの繰り返しです。授業では最終的に図面を提出し活動は終わりましたが、鹿児島県建築士会が主催する第57回建築設計競技があることを知り応募することにしました。自主的にクラスから12名参加し、夏休みに活動を再開しました。私は授業で考えた案をベースにしましたが、より良くするため一度全てをリセットして見直しました。

そして、大体の図面が確定してきたのでボードにまとめることになりましたが、コンペに応募するの



すらも初めてだったためここでも苦戦しました。ボードの作り方をどのようにするか、パースの描き方がわからない、レイアウトが決まらない、

期限も短く毎日クラスメイトと製図室で作業をしていました。締め切り前夜では、終わらず学校に泊まりながら徹夜で作業しなんとか完成させました。とても辛かったです。

それから、私が審査の結果を知ったのは一週間ほど後で駅にいた時です。思わず「よし！」と声を出してしまいました。第57回建築設計競技で1番に当たる金賞を受賞する事ができました。また、他にも銅賞、審査員特別賞、学校賞とみんなの努力で勝ち取る事ができました。夏休みに頑張ってきた事が結果に表れて本当に良かったです。そして、ここまで評価を頂けたのは先生方の指導、支援があつての事だと心に留めこの経験を成長の糧として生かしていきたいと思います。充実した夏休みを過ごす事ができました。後輩たちも是非挑戦して欲しいです。

デザコン 2021 in 呉
Design Competition for KOSEN students
空間デザイン部門

弱みは強み

都市環境デザイン工学科5年 福元 恋彩瑠

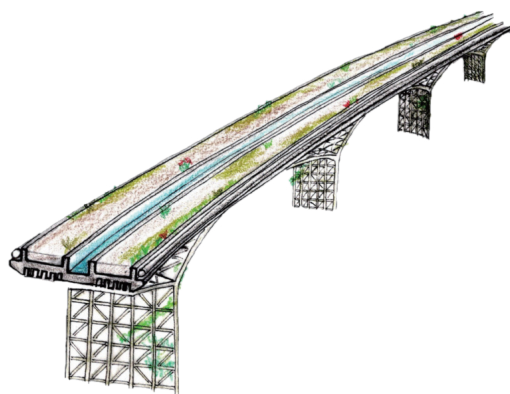
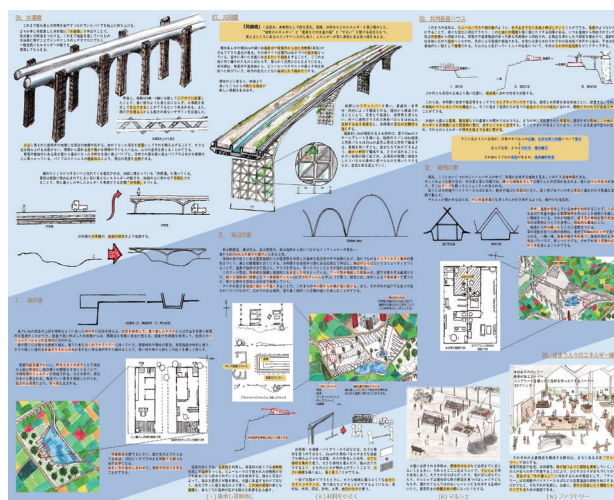
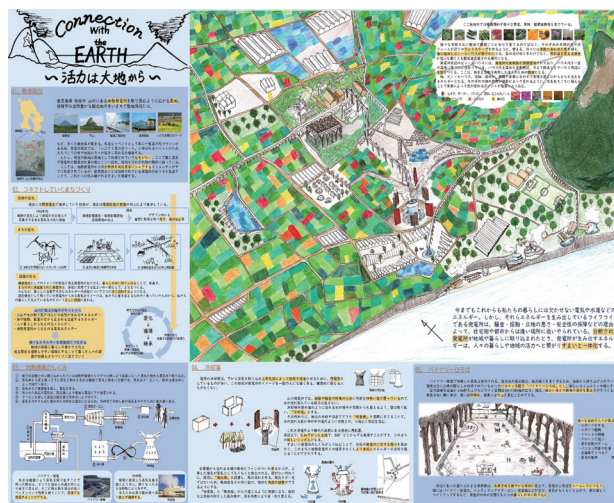
鹿児島高専に入学して5年。建築士になるために入学した私にとって、都市環境デザイン工学科の授業は、通常の建築学科とはギャップのあるものだった。土木の授業が多く、建築の設計に集中できる機会が少ない。そんな中でも積極的に建築のコンペや部活に取り組んだ。始めは「建築士の資格が取ればいい」と思っていたが、もっと建築にのめり込みたいと思うようになり、他高専の建築学科への編入を本気で考えたこともあった。

1年生の頃から参加を目指していた今回のデザコン。毎年発行されるデザコンの公式ブックで受賞作品を見るたびに、「まともに設計できていない私が予選通過できるのだろうか」と感じていたが、予選通過することができた。正直予選通過できたことで少し満足している自分がいた。

本戦当日。各高専の手の込んだ大きな模型が並び、図面やCGを描くソフトの話が盛り上がる声が聞こえ、レベルの差を感じた。完全にアウェイな空気。そんな中、私はすまいの提案の中に、私たちの暮らしには必要不可欠なインフラの要素を橋に表現し提案した。都市環らしい土木や環境まで取り込んだもの。他とは毛色の違う提案に、審査委員の先生方も興味を抱いてくれた。「ここに僕も住んでみたいです。」審査委員長が言った。デザコン最終審査で、私の案は上位3つに残るか残らないかの議論に挙がった。結果、その3つを上回ることはなかった。

白熱する議論の中、この学科を何度か辞めたいと思ったことがあった私は、この学科で諦めずに様々なことに挑戦してよかったと思った。上位3つの作品に一瞬でも並ぶことができて嬉しかった。自分が他と比べ、建築の勉強が出来ていないという弱みのせいで、自信を失くし中途半端で満足していた。これまで自分が弱みだと思っていたものは、土木や環境について勉強しているという強みでもあった。自分の弱みをどこまで克服しどこまで活かせるかは、自分との闘い。限界を決めるのは自分自身なので後悔せずにやり抜きたいなら、途中で満足するのはよくないと思った。今年で卒業なのでデザコンは最後

だったが、後輩には諦めずに挑戦し続けてほしいし、いい見本になれるよう私は自分に挑戦し続けていきたい。



是非読んでください

機械工学科5年 九万田 璃空

まず初めに、このような形で5年間を振り返る機会を与えて頂いたことに感謝いたします。長いようで短く、辛いようで楽しい時間をここで過ごすことができました。今回は在校生の皆さんへ学生のうちにしておいた方がいいことを、私の実体験を交えて2つ紹介します。1つ目は『チャンスに物にすること』。私は物心ついた時から、人前に出て何かすることが好きで、目立つことにも抵抗がありませんでした。そのおかげか、高専生活の中でチャンスがあればその組織のリーダーになることを意識するようになりました。結果として、幅広い考え方、創造力、みんなでチャレンジし成功したときの歓喜など、多くのものが得られ、確実に自分を成長させてくれました。チャレンジに対しての失敗は、成功への近道です。失敗を笑う人間も多くいましたが、そんな人間を気にしてる場合ではありません。もっと若いうちから、些細なチャンスを見逃さず、失敗と成功の経験を繰り返して、アイデンティティを確立することが大切です。

2つ目は『何かを続ける』ということです。私はこれまで16年もの間サッカーを続けてきました。高専に入って戦術的な部分を理解し、何倍もサッ



カーが楽しくなりました。同年代には上手な選手が多く、その分闘争心も湧きました。

同級生が上級生の試合に混じって出場

する中で、自分はボール拾いをしながら眺めている状況というのが大嫌いでした。だから、たくさん練習しました。元々のポテンシャルが高い訳ではないので、地道に努力するしかなかったんですね。私は早い段階でそこを理解していたので、その先に成長があったと思います。苦しくて、辛い時間の方が何倍も長いですが、努力が実ったあの瞬間を味わうために、歯を食いしばって練習を続けることができました。サッカーを通して、人間性の部分、根性の部分、リーダーシップ、他にも多くのことを学びました。きつい練習を乗り越えて、強い相手に勝ち、みんなで抱き合った。あの記憶は一生忘れません。これも継続してきたからこそできた経験です。みなさんにも、何かを継続し、目標を達成したときの感動をたくさん味わってほしいです。最後に、ここまでサッカーを続けてくれたみんなが大好きです。ありがとうございました。

2ストみたいな5M 学生達へ

機械工学科5年担任 白石 貴行

5年機械(5M)の学生諸君、卒業おめでとう。いきなりだけど、5Mの皆さんご存知の通り、私の趣味はバイクに乗ること。愛車は学生時代から乗っているNSR250R。NSRは2ストロークエンジンで、環境に悪い白い煙を吐きながらスカスカな低速トルクで発進したかと思えばパワーバンドも狭い。音もうるさい。何が言いたいかって言うと、5Mと似てるなあってこと。

そんなNSRだけど、高回転のパワーバンドに入った時に出るパワーは他とは桁違い！軽さと馬力に物を言わせて圧倒的な加速を見せつける！！本当に5Mそのもの。とにかく騒がしくて、パッと見は少しとんがっていて、勉強に対する熱意もかなりムラがある。でも、一度火がついたらこれでもかって



くらい勢いがある。いい意味で、今時なかなかこんな学生いないよ。担任している時はそろそろ大人になれと小言も言ったけど、よく考えてみれば私が3年間も担任したこのクラス、よそから見れば此の担任にして此の学生ありというところかな。

大したことは言えませんが、最後に一言だけ。自分の人生、自分が主役です。他人と比較してしまうこともあると思うけど、自分なりの幸せを探して好きなように楽しく生きたいよ。

卒業を迎えて

電気電子工学科5年 木下 豪

卒業を迎えるにあたり、これまでの高専生活の軌跡を振り返ってみると、5年間という時間は、思っていたよりも早く過ぎていったなと感じます。

期待と不安を胸に抱えて高専へ入学して最初に驚いたのが、1年生の時点ですでに複数名留年生がいたことでした。これを見て、やっぱり高専は厳しいところなんだなと思いました。

2年生、3年生時には、授業がより専門的な内容になってきて理解が追い付かない事もあったり、2年生からは実験が始まったことで、レポートの提出期限に追われたりして、忙しい日々を過ごすようになり、だんだん成績が低迷していきました。その結果、当時の担任の先生から他の進路について提案されたりもしました。この時、ようやく冷静に自分自身を見つめ直し、「悔しいがこのままではいけない、頑張ってみ返さないと」という思いを原動力にして、「少しでも多くの知識をつけるために、立ち直らなければいけない」と決意しました。そのために、空いた時間を利用して、じっくり時間をかけて復習をし直すことにしました。友人たちに助けを借りたり、教科書以外にも、図書館の蔵書を活用したりするなど、より意欲的に、遅れを取り戻すために勉強を行ってきました。その結果、成

績を向上させることができ、お陰様で、ここまで学び続けることができました。

また、成績が向上してきたことで、座学の合間に出た話題や、ニュース等で報じられたことについて少し調べるようになるなど、より興味、関心を持って様々な物事に取り組む良い習慣を身に着けることができました。この習慣は部活動にも活かされ、所属している野球部での練習メニューに加えて、けがをしないための体づくりや、それに必要なトレーニングについて調べて、個人的に取り入れてみるなど、上手くなるために貪欲に取り組みました。残念ながら、コロナ禍で4、5年時の高専大会は中止となってしまいましたが、5年間野球部で活動できて良かったなと思います。

最後に、この5年間を振り返ってみると、多くの人に支えられてきたなと思います。高専で学んだことを糧に、社会に飛び立ち、未来の社会に役立つモノづくりに携わる立派なエンジニアになるために努力していきたいと思います。お世話になった先生方、共に学んできたクラスメイト、そして何より、20年間見守ってくれた両親に、この場をお借りして、感謝申し上げます。



時にはゲームを忘れよう

電気電子工学科5年担任 逆瀬川 栄一

5年電気のみなさん、ご卒業おめでとうございます。また、保護者の皆様、お子様のご卒業誠にありがとうございます。担任として、卒業を目指す学生全員が卒業し、新たな進路に向けて旅立つ

ていけることを心からうれしく思います。皆さんとの思い出を少し振り返ってみます。1年生の頃、私は電気回路Ⅰの授業を担当していました。そのときの印象です。「授業が進まない…」、「うなづく学生がほほいらない」、「この調子でこのクラスの学生たちは大丈夫かな」と心配していました。そんなことも



ありましたが、テスト、実験、実習、レポートをよく乗り越えてくれました。一番印象的だったのは、4年次の応援合戦で列隊長の皆さんがピンクの服を着たことでした。とてもショックで時代を感じました。

さて、皆さんは新しい時代の真っ只中を生きています。今の時代は先のことはわかりません。変わらないことは何でしょうか。自然を大切に、目の前の人を大切に、お互いに協力しながら仕事をし、家族を思いやり、幸せを感じながら、日々生きていくことではないでしょうか。今の時代、モノと情報があふれ、感性がおろそかになっています。時にはゲームを忘れ、情報機器を横において、自分の気持ちと向き合ってみることをお勧めします。また会いましょう。

五年間の経験と学び

電子制御工学科5年 向井 優登

季節は巡り、5年間に及ぶ高専生活が終わりを告げようとしています。振り返ってみると、高専で過ごした5年間は長いようで短く、濃密な時間であったと感慨深く感じるものです。私は高専生活を通して、多くの経験と貴重な学びを得ることができたと思っています。

私が高専に入学したきっかけは、ものづくりが小さいころから好きで、将来はものづくりに携わること社会貢献をしたいと思ったからでした。この志を見失うことなく、日々を過ごせたことが今でも大きな資産になっています。

学校生活においては、苦手な数学の勉強に悩まされたことが記憶に残っています。それでも、多くの先生方や友人に勉強を教えてもらいながら、ここまでやっていくことができました。お世話になった皆さんには、大変感謝しております。試験期間中に友人達と集まって、夜遅くまで地獄のような試験勉強をしたこともありました。しかし、今思い返せばそれも大切な思い出の一つです。苦楽を共にし、それを乗り越えた仲間の存在は、高専生活で得た大きな資産の一つです。

部活動では創造設計部模型部門に所属し、活動を



行ってきました。元々は、模型の製作活動や展示活動を行う有志の集いでしたが、私が先輩より運営を引き継いだのち、創造設計部という一つの部活動として認めてもらうことができました。文化祭では毎年、大規模な模型展示会を行っています（写真はその様子）が、そこで得た運営や展示のノウハウは、何事にも代えがたい貴重な経験であったと強く思っています。この活動を通して、「自分なりに考えて、精一杯工夫してやってみる」という創意工夫の精神が強く根付きました。

こうして私は、多くの経験と貴重な学びを5年間の高専生活で得ることができました。この経験と学びを人生の糧として、技術者として今後も奮励努力して参る所存であります。高専での生活で得た多くの知見と創意工夫の精神がこれからの人生の支えになっていくと確信しています。

最後に、5年間の高専生活でお世話になった全ての方々に、心より感謝申し上げます。

コロナ渦で過ごした高学年

電子制御工学科5年 担任 福添 孝明

令和2、3年度の担任を務めました。今回担当したクラスの特筆すべき点は、高学年をコロナ渦で過ごしたことに尽きます。私は保護者全体と対面で会う機会が無いまま、卒業式を迎える見込みで、過去にも先にも無い事かと思えます。

高専は実験・実習を主とした授業が多いですが、それは感染リスクが高いということです。創造設計Ⅱという、チームでテーマを定めて製品開発する授業がありますが、緊急事態宣言を受けて遠隔授業になったため、Moodle上のチャットで進捗報告してもらうことにしました。

チーム内での意思疎通が出来るのか心配していましたが、LINEなどで議論していた様子で、無難に報告をこなしてくれました。



振り返ってみると、大変な状況下でも何とか乗り越えていくのが、高専だなと思います（大学は未だに遠隔授業が多いです）。

写真は「感染防止を徹底して」実施したマイコン演習の一場面で、私も高専教員として頑張りました。不便な面も多々ありましたが、一方でTeamsを使ったビデオ会議が出来る様になりました。将来、卒業生が地球の裏側で活躍していても、手軽に元気な顔が見られると思うと、それはそれでしみな事です。

高専で学んだこと

情報工学科5年 富吉 宏樹

私は、今年高専を卒業する。今でも実感が沸かないが、私は、この学校で5年間に渡り多くのことを学んできた。その中でも、私の価値観に大きな影響を与えたものは部活動であった。

私は、3年の夏からラグビー部に入部した。入部してすぐの頃は部員が少なく、練習をするのにも苦勞していた。そんな中、部長を中心として部員集めに奔走した。その結果、部員を10人にまで増やすことができ、2年目の高専大会では7人制での試合で初勝利を挙げることもできた。これらのことを通して、チームで同じ目標を持って行動することの大切さや、チームとして行動するにあたって気を付けなければならないことなど、多くのことを学ぶことができた。このようなラグビー部での経験は、私にとって後にも先にも得られないかけがえのないものである。なお、現在では私たち5年生は引退し、後輩たちが部員集めに奔走している。月、水、金曜日の放課後と土曜日の午前中に寮の入り口近くで練習しているので、興味のある方は見学や体験に来てほしい。

また、4年の後期から始まった卒業研究は、私の学習に対する価値観を大きく変えた。私は、担当の

先生から受けた助言を基に、自身で決めた題材について研究している。卒業研究では、これまで行ってきたような学習とは異なり、教科書などに明確な答えがない問題に対しても解決策を講じることになる。私が行っている画像処理の研究についても、その要素が占める割合は大きい。1つの答えのない問題に対して、数日間悩み続けるということもざらにある。私は、自身の卒業研究を通して、一見矛盾しているような課題と目的に対して、どのようなアプローチがその課題を解決するのに有効かについて考えること、すなわち多面的に物事を見る力が養われているのではないかと考えている。

高専に入学してから卒業するまでを振り返ると、多くの人に多くのものを与えられてきたと思う。5年間過ごしてきたクラスメイトや様々なことを教わった先生方だけでなく、部活動や応援団のメンバーからも大切なことを学んだ。このような、高専生活を通して得られた知見を今後の生活でも有効に活用していきたいと思っている。

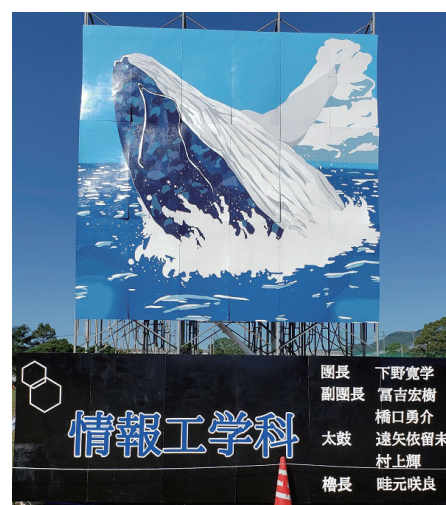
5年間の滑走路

情報工学科5年担任 豊平 隆之

卒業おめでとうございます。鹿児島高専で学んだ5年間の学生生活は一生の思い出になると思います。

高専生になって勉強についていけるだろうか寮生活はどうだろうかとか気をもんだ日々、徐々に慣れていつの間にか4年生になり高専祭で応援団・櫓絵作成にリーダーシップを発揮しないとイケない立場、そして卒業後の進路を考えないとイケないが、立ちふさがるコロナウィルスの壁と例年以上の試練がありました。例年ならばインターンシップや会社見学もありましたが、ほとんどがオンラインとなってしまう、直接見聞きすることができませんでした。

これから新生活が始まりますが、これからは学校や家族からの保護を得られない自立した生活を送ら



なければなりません。この5年間で学んだこと、体験したことや悔しかったことを糧にして新世界で羽ばたき飛び立ってください。また、高専での友人は、一生の友となりますので大切にして連絡をとりあってください。困ったときにはきっと相談に乗ってくれると思います。

私の5年間

都市環境デザイン工学科5年 仮屋園 恵

多くの方々に支えられたあっという間の5年間。入学して最初の帰省の日、電車にひとりで乗ったことがない私は駅員さんに切符の買い方から電車のホームの待つ場所、何から何まで教えてもらったのを懐かしく覚えています。

私はじっくり時間をかけて物事を理解し進めていく性格なのですが、なかなか要領を得ず勉強面では大変苦労しました。試験を万全の態勢で迎えられるように必死で計画し勉強に取り組みましたが、なにしろ量が多く毎回くじけそうになるのです。家族には数知れない八つ当たりをしてしまいました。それでも、私のきまぐれに付き合い“気張れ”と励まし続けてくれた父親には感謝でいっぱいです。理解するのに時間はかかりますが、理解できると問題が解けるようになるのでそれが楽しく勉強は好きです。この5年間で勉強に対する姿勢を身に付けることができました。

とても気の合う友人に出会うこともできました。楽しい時もつらい時もどんな時でもそばにいてくれて、私の大きな支えでした。試験後のカフェ巡りは恒例行事となり私の試験のモチベーションでした。一緒にいると自然に笑顔になって何をするにも楽し



かったです。私の5年間はこの友人のおかげで充実していたし、かけがえのないものとなりました。この出会いだけでも高専に入学して良かったと思っています。

卒業研究にも一生懸命取り組んでいます。私は研究できるのを育てています。低カリウムきのこという革新的なものです。この研究技術で、現在の食料システムの恩恵を受けられていない多くの人々の食生活を豊かにしたいです。学会で発表した際には、先生や先輩、クラスメートに助言をいただき何とか発表を終えることができました。未熟さを痛感しましたがこれからもっと経験を積み、日々精進していきたいと思います。また、学んだことを将来に活かしていきたいです。

人とのつながり、環境に恵まれてこの5年間を過ごすことができました。お世話になった先生方、友人、家族、JR 準人駅の駅員さん、本当にありがとうございました。

なお、私は専攻科への進学が決まったので、あと2年間引き続きよろしくお願いいたします。

未来へはばたく君たちへ

都市環境デザイン工学科5年担任 内田 一平

卒業生の皆さん、ご卒業、おめでとうございます。また、保護者の皆さまにおかれましては、学生の晴れの日を迎えるまで、ご支援とご協力、誠に感謝申し上げます。

横山先生からバトンを引き継ぎ担任として皆さんと過ごした2年間は、これまでに経験しなかったコロナ禍でした。振り返ってみても、初めての遠隔授業、県内限定インターンシップ、高専祭の規模縮小、Web 会社説明会、突然の休校、遠隔地移動後の自宅待機などなど、ここでは書ききれない程の初めての経験をしたと思います。これらの多くのものは、数々の制約の中で活動をしなければならなかったのではないかと思います。そこには、数々の制約下でも知識と知恵を使いながら最大パフォーマンスと

は言えないまでも一定以上の成果を導き出したことでしょう。これらの事柄を好意的に捉えるのであれば、よい練習・よい経験の場になっていると思います。そして、皆さんがこれから歩もうとする道はそれぞれ違えども建設系の技術者として社会貢献していく中で、これら学生時代の経験が少なからず活かされ、さらなる社会の安全と発展に寄与していただきたいと思います。

最後になりますが、卒業する皆さんの活躍を期待しつつ担任からの送る言葉と致します。



影の努力

機械・電子システム工学専攻2年 宮元 勇輔

授業を受けるのは楽しいですか？この質問をされたときあなたならどう答えますか。憶測ですが、過半数はNOと答えるでしょう。こんなことを聞いておきながら、実は自分もあまり楽しいと思ったことはありません。自分の気になる科目ならもちろん楽しいですが、興味のない科目や、授業のやり方やスピードが自分のやり方に合っていない授業はつまらなく感じて当然です。そんな授業の時には別科目の課題や、猛烈な睡魔に襲われ寝てしまうことが多々あります。もちろん悪いことですが抗えないことも事実です。自分にも経験がありますし、あれはどうしようもないです。

しかし、ある時から楽しくなったとまでは言いませんが授業に真面目に取り組むようになりました。理由は単純で、授業の大変さを体感したからです。学年が上がるにつれ発表の機会が徐々に多くなります。専攻科になるとゼミ形式と呼ばれる自分が授業をする講義も出てきます。5分10分の発表とは比

較できないほどに、膨大な時間と労力を費やします。自分の場合は、40分の授業の為に1週間以上準備を行いました。いざ発表をすると準備をしてきた甲斐もあり授業自体はすんなり進ませることができました。しかし、授業をしていると授業を聞いていない人は信じられないくらい分かります。それと同時に少し寂しくもなります。力作と呼べるほどに誠意を込めて作り上げた授業を一切聞かれないと、つまらなかったのか、言葉選びがまずかったか、内容が分からなかったのか等々、不安要素がどんどん湧き上がってきます。しかし、それ以上に一生懸命に授業を聞いている人は目に入り、自分の授業やこれまでの努力に自信を持たせてくれます。

なかなかこういった体験をすることは難しいですが、90分の授業をするためにはどれくらい膨大な時間と労力をかけているかは、想像しやすいと思います。この努力を題名にあるように「影の努力」と自分は呼んでいます。是非これを読んで少しでもその努力に酬いたいと感じたら、授業を真面目に取り組んでみてはどうでしょう。

高専7年間を振り返って

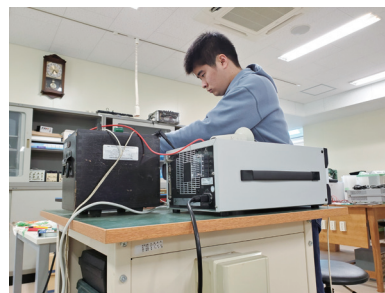
電気情報システム工学専攻2年 松下 琢海

私は、鹿児島高専に7年間在籍しました。本科5年間は電気電子工学科に、専攻科2年間は電気情報システム工学専攻に所属していました。

同じ学校に7年間いることは、ほとんどないと思います。私は、この7年間で様々なことを学ぶことができました。ここでは、高専7年間を振り返って印象深かったことを書いていきます。

1つ目は、専門科目の勉強です。高専に入る前は、発電所等の電気関係の仕事に従事したいと考えていました。だから、電気のことだけ学ばばいいのではないかと思いました。しかし、電気電子工学を学んでいく内に、電気関係の仕事というものとはとても幅広いことが分かりました。発電所でも、電気だけでなく、機械・制御・情報等の他分野の知識を持っておく必要があります。高専では多くの専門科目が存在し、どの科目も社会に出た際に役立つ内容を学べる為、素晴らしい学校であると改めて感じる事ができました。

2つ目は、体育祭における応援団です。応援団では主に本科4年生が中心となり演舞の構成を考え、また1年生から3年生



への演舞指導を行います。私は、列隊長として、担当する列の団員に演舞指導を行いました。最初は、後輩への指導が上手くできずに頭を悩ませる時期が続きました。その際は、同級生たちに助言を受けながら演舞の指導方法の改善を図りました。その結果、団の演舞の完成度が良くなり、最終的には応援の部で6年ぶりの学科優勝をすることができました。

このように、高専7年間でたくさんの貴重な経験をすることができました。鹿児島高専に在学している皆さんは、残りの学生生活を悔いのないように楽しんでください。また、これから鹿児島高専に入学しようと思っている方は、是非来てみてはいかがでしょうか。

自身の成長を実感

建設工学専攻2年（連携教育プログラム）

吉村 凌弥

私は、「先進テクノロジー実践連携教育プログラム」の第一期生として、本校の建設工学専攻と長岡技術科学大学の両校に在籍し、勉学・研究に努めました。このプログラムの特徴は、両校の特色を持った授業を受けて単位を取得できる事です。また、修了時に本校から専攻科「修了証」を交付され、長岡技術科学大学から「学位」を授与されます。具体的には、専攻科1年次に本校で授業を受け、専攻科2年次には新潟県長岡市に引っ越し、長岡技術科学大学にて授業を受けました。

本校専攻科1年次は、初めての連携教育プログラム生ということもあり、できるだけ単位を取得しておこうと思い、多くの授業を受けました。勉学と研究の両立は非常に大変でしたが、周りの学生や先生に支えられながら乗り越えることができ、そのお陰で、2年次は研究に集中できました。

専攻科2年次（長岡技術科学大学4年次）は、主

に環境工学について学び、今後の持続可能社会の発展に向け、何を考えるべきかを学びました。研究では主に「植物病害抑制に寄与する微生物叢の同定と機能解析」に取り組みました。本校での本科5年次、専攻科1年次まで行っていた研究で得た知識を生かすことができています。

本プログラムを通して、両校の異なった環境のもと、地域の様々な課題を考えながら勉学・研究に取り組めたことは非常に大きな経験となり、自分自身が大きく成長したと実感しています。また、両校の友人、先輩後輩、先生方との人的ネットワークを築くことができました。

来年度から、長岡技術科学大学大学院に進学する予定です。進学後も勉学・研究に努め、新しい研究成果を公表し、イノベーションを起こして社会に貢献できるような技術者になりたいと考えています。



贈る言葉

専攻科長 新田 敦司

専攻科修了生の皆さん、卒業おめでとうございます。そして修了生の保護者の皆様、ご卒業心よりお喜び申し上げます。

鹿児島高専への入学から専攻科を終了するまで、長い年月を高専で過ごされたわけですが、学生生活はどうでしたか？長かった高専生活で、本当にたくさんの思い出が出来たと思います。また、この出会いを大切にしてもらいたいと思います。

専攻科は産業界が求める生産現場などで実践的に問題解決ができ、かつ最先端の技術にも精通した創造力豊かな開発型技術者の育成を目指しています。このため、専攻科の2年間は専門能力を更に高めていく学習、地域課題を抽出し、課題解決を目指すPBL科目の実施、大卒と同等の「学士」を得るため「特別研究論文」の作成など、すべきことが多かったと思います。

ここで、専攻科での特別研究について簡単に紹介したいと思います。特別研究は指導教員と共に新し



研究進捗報告会風景

い事実や解釈の発見のために取り組みます。特別研究の成果を学外で研究発表（学会発表）することが、特別研究の単位取得の要件となっています。学内では、学生の研究力、プレゼン力の向上を目的に研究進捗報告会を開催しています。近年の専攻科生の中には国際会議での発表や査読付き論文に掲載されるなどの大きな成果を挙げる学生もいます。また、専攻科修了生の研究能力は進学先（大学院）でも高い評価を得ています。

最後に、これまでの専攻科の修了生は大学だけではなく産業界からも高い評価を得ています。これもひとえに修了生の弛まぬ努力の賜物です。皆さんも、学びを止めないでください。今後のご健闘をお祈りいたします。

卒業生の就職・進学一覧及び修了生の就職・進学一覧

《機械工学科》

株式会社 IHI プラント
旭化成株式会社
SCSK ニアショアシステムズ株式会社
株式会社カンセツ
京セラ株式会社（隼人工場）
京セラ株式会社（国分工場）（4名）
独立行政法人国立印刷局
株式会社タダノ
神鋼テクノ株式会社
東フロコーポレーション株式会社
東京ガス株式会社
株式会社東研サーモテック（2名）
株式会社日産オートモーティブテクノロジー
株式会社藤田ワークス（2名）
雪印メグミルク株式会社
（進学）鹿児島高専 専攻科（5名）
（進学）鹿児島大学 工学部（2名）
（進学）九州工業大学 工学部
（進学）東京電機大学 工学部
（進学）熊本大学 工学部（3名）
（進学）佐賀大学 理工学部（2名）
（進学）宮崎大学 工学部
（進学）立命館大学 理工学部

《電気電子工学科》

旭化成株式会社
アドバンスドプランニング株式会社
株式会社鹿児島データアプリケーション
九州電力株式会社
株式会社九州タブチ
京セラ株式会社 国分工場（2名）
京セラ株式会社 鹿児島川内工場
株式会社 J-Power ハイテック
新明和工業株式会社
スズキ株式会社
株式会社 SUBARU
東京ガス株式会社
株式会社ナスカ
パナソニック株式会社 インダストリーソリューションズ社 山口工場
パナソニック株式会社 パナソニックアプライアンス社
パナソニック株式会社 パナソニックコネクティッド社
本田技研工業株式会社
マツダ株式会社
三菱電機プラントエンジニアリング株式会社
三菱電機通信機製作所
三菱電機ビルテクノサービス株式会社
ミヤマ工業株式会社
メタコート工業株式会社 岡山工場
株式会社安川電機（2名）
ユピテル株式会社（2名）
（進学）鹿児島高専 専攻科（3名）
（進学）九州工業大学 情報工学部 知的システム工学科 ロボティクスコース
（進学）鹿児島大学 工学部（2名）
（進学）九州大学 理学部 数学科
（進学）九州工業大学 情報工学部
（進学）熊本大学 工学部（2名）

《電子制御工学科》

アイリスオーヤマ株式会社
旭化成株式会社
パナソニック株式会社 インダストリアルソリューションズ社
パナソニック株式会社 インダストリアルソリューションズ社山口工場
株式会社カンセツ
関西電力株式会社
京セラ株式会社鹿児島国分工場（4名）
ダイダン株式会社
東レ株式会社
株式会社トヨタシステムズ
日本オーチス・エレベータ株式会社
日本精工九州株式会社
ファナック株式会社（2名）
富士フイルムメディカル株式会社
三菱電機エンジニアリング株式会社
株式会社メンバーズ（2名）
株式会社モリナガ
株式会社安川電機
（進学）鹿児島高専 専攻科（7名）
（進学）豊橋技術科学大学 機械工学課程（2名）
（進学）鹿児島大学 工学部
（進学）東京工業大学 工学院
（進学）九州大学 工学部
（進学）九州工業大学 情報工学部
（進学）熊本大学 工学部（3名）

《情報工学科》

株式会社アソウ・アルファ
株式会社アルテックス
鹿児島テレビ株式会社
関西電力送配電株式会社
京セラ株式会社国分工場（2名）
京セラコミュニケーションシステム株式会社
ソフトバンク株式会社
株式会社タマディック
株式会社ファインディックス（2名）
富士フイルムビジネスイノベーションジャパン株式会社
富士電機株式会社
PayPay カード株式会社
三菱電機株式会社名古屋製作所
株式会社南日本情報処理センター
株式会社メイテックフィルダーズ
株式会社ユピテル（2名）
（進学）鹿児島高専 専攻科（7名）
（進学）東京工業大学
（進学）横浜国立大学 理工学部
（進学）九州大学 芸術工学部
（進学）九州工業大学 情報工学部（2名）
（進学）熊本大学 工学部

《都市環境デザイン工学科》

オリエンタル白石株式会社
コーアツ工業株式会社
株式会社 国分ハウジング
五洋建設株式会社
サンコーコンサルタント株式会社
株式会社 大進
東海旅客鉄道株式会社 （2名）
中日本ハイウェイ・エンジニアリング東京株式会社
南生建設株式会社
西日本高速道路エンジニアリング九州株式会社
パシコン技術管理株式会社
株式会社ピーエス三菱
鹿児島県庁 （3名）
鹿児島市役所
国家公務員
公益財団法人 鹿児島県建設技術センター
国土交通省 九州地方整備局 （2名）
（進学）鹿児島高専 専攻科 （5名）
（進学）長岡技術科学大学 環境社会基盤工学課程 （3名）
（進学）鹿児島大学 工学部 （3名）
（進学）九州大学 経済学部
（進学）熊本大学 工学部

《機械・電子システム工学専攻》

ソフトマックス株式会社
株式会社トヨタ車体研究所
パナソニックシステムソリューションズジャパン株式会社
株式会社日立産業制御ソリューションズ
富士通クライアントコンピューティング株式会社
株式会社明興テクノス
（進学）東京大学大学院 新領域創成科学研究科 人間環境学専攻
（進学）九州大学大学院 システム生命科学府 システム生命科学専攻生命情報科学講座ヒューマンインターフェース研究室
（進学）九州大学大学院 総合理工学府Ⅲ類
（進学）奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科情報科学領域

《電気情報システム工学専攻》

株式会社 AXSEED
株式会社エヌ・ティ・ティ・データ
エリクソン・ジャパン株式会社
株式会社オプティム
株式会社小松製作所
中越パルプ工業株式会社
株式会社メンバーズ
（進学）長岡技術科学大学 電気電子情報工学専攻電気エネルギーシステム制御工学コース

《建設工学専攻》

エヌ・ティ・ティ・インフラネット株式会社
エム・エム ブリッジ株式会社
株式会社加藤建設
東急建設株式会社
福岡国際空港株式会社
（進学）長岡技術科学大学大学院 工学研究科修士課程環境社会基盤工学専攻
（進学）長岡技術科学大学大学院5年一貫制博士課程 技術科学イノベーション専攻
（進学）長岡技術科学大学大学院 工学研究科修士課程環境社会基盤工学専攻
（進学）熊本大学大学院 自然科学教育部博士前期課程土木建築学専攻



卒業生の現在 (本科・専攻科)

高専生活、楽しんで！

平成 30 年度 機械工学科卒業 平島 和加奈

みなさん、こんにちは。私は、平成 30 年度に鹿児島高専機械工学科を卒業した平島と申します。現在、株式会社東研サーモテック三重工場で働いています。事業内容を簡単に説明すると、「熱処理」という技術を使って、お客様の製品に付加価値をつけています。「熱処理」はあまり聞き馴染みのない言葉だと思います。鉄鋼は、温度・時間・周りのガスによって、軟らかくなったり硬くなったりと様々な性質に変わる特性を持っているので、それを利用して製品を目的の性質にする技術が「熱処理」です。私は弊社で、製品に熱処理加工がちゃんとされているか、検査をして品質チェックする仕事をしています。半年ほど前に品質管理課という部署に入り、入社 3 年目にして新しいことを学ぶ、勉強の日々を送っています。

さて、「高専だより」に寄稿することになり、高専生活を思い返して一つエピソードがありました。5 年生の時、学校体験に向けて研究室で「サンドブラストを利用してガラスに模様をつける」という体験の準備をしました。そのときにお試して自分の好きな柄をつけてオリジナルグラスを作ることになり、私は友人用に、友人たちの好きなキャラクターモチーフの入ったグラスを作りました。つい先日その話を友人たちにしたところ、「すごく気に入って今でもたま



に使っている」と聞き、とてもうれしくなりました。自分の作ったものを形にでき、それを使って誰かが喜んでくれる。このときに「モノづくりっていいな」とおもいました。このような経験が出来たのも高専だからかもしれません。同時に「なんで自分の分作り損ねたのだろう」と後悔したのは別の話ですが。

この話を通じて私は学生の皆さんに「高専生活、様々なことに挑戦していっぱい楽しんでほしい」ということを伝えたいです。

なにもモノづくりに限ったことではありません。友達や先輩と遊んだり、部活に打ち込んだり、趣味に没頭したり、期末試験と格闘したり、様々なことをやってみて、経験してください。高専は、挑戦するにはもってこいの学校だと思います。中には失敗することもあるかもしれません。しかし、それら含めて、意外と、将来の自分の支えとなります。自分の進路を考えるときの判断材料にもなります。限りある高専生活、ぜひ有意義に使ってください。

最後に、今回はこのような機会をいただき、ありがとうございました。まだまだ新型コロナウイルスの影響もあり、自由にとはいかない世の中ですが、鹿児島高専のご発展と、学生のご活躍を心より願っています。

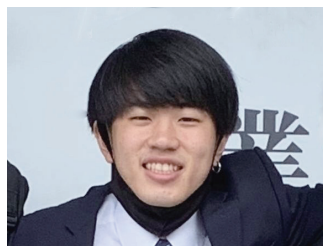
在校生の皆さんへ

令和 2 年度 電気電子工学科 指宿 竜之介

皆様こんにちは。私は令和 2 年に電気電子工学科を卒業しました。現在は JR 西日本旅客鉄道株式会社の新山口新幹線電気区という配属先で、主に新幹線の安全運行を設備維持や、修繕などといった技術面で支えている仕事に携わっています。

鉄道会社に興味がある人のためにも入社してから感じたことを話します。まず鉄道という大きな社会インフラを支えている一員として仕事にはやりがいや誇りを持つことができます。仕事ですが、鉄道の保全業務に必要な知識というものは計り知れなく、毎日が知らない設備や情報のやり取りの日々で、新しいことを覚えてはまた新しいことの繰り返しでキリがないです。しかし、技術者として名高い高専生であれば、鉄道の計算され尽くされた設備やシステムの驚くべき技術力の高さを知ってしまえば、自然と興味が湧き、初めは鉄道が好きではなくても、鉄道が好きになるはず。鉄道知識 0 でも楽しく仕事できますので、就職先で迷っている学生がいれば、ぜひ候補として鉄道会社も考えてみてください。

さて、これから先、皆さんが就職し、社会の一員として、周りから信頼される人になるにはどうすればよいかを、アドバイスとして話そうと思います。それは同じ失敗を繰り返さないことです。人は生きていく中で必ず失敗やミスを行います。コンピューターであれば、プログラムをいじるだけで 100%、同じ



ミスをするとはなくなりませんが、人間はそううまく行きません。よって、その可能性を少しでも下げる方法を 2 つほど教えます。

まず 1 つ目は、失敗した後にメモを取ることです。大抵失敗をすると上司から指導や、注意を受けます。この時ただ聞くだけではなく、メモをとりながら聞くことで、なぜ自分がミスしてしまったのか、何が行けなかったのかの整理がその場でできるため、失敗を繰り返す可能性が低くなります。しかし、ただメモを取るだけではなく、これを後から見返すことができるものではなくは意味がありませんので注意して下さい。

2 つ目は、他人の失敗を自分ゴト化して学ぶです。職場の仲間や先輩が失敗した時に、人のことだからいいやと何も考えず、聞く耳を持たないことは大きな損です。他人の失敗を見聞きしたらすぐに自分ゴトと考え、同じミスを繰り返さないように考えることができれば、自分は失敗せずに成長することができるのですからお得です。

最後になりますが、人間に失敗やミスはつきものです。大事なことはその失敗やミスをした後にあります。失敗やミスから自分をどれだけ成長させることができるかで、上司や仲間から受ける信頼も大きく変化します。同じ失敗を繰り返さないように努力しましょう。

在校生の皆さんへ

平成 30 年度 電子制御工学科 井手籠 純誠

初めまして。卒業生の井手籠です。私は、高専卒業後、熊本大学へ編入し、現在は、TOTO 株式会社でソフト開発業務に従事しております。

在校生の皆様、高専生活をどのようにお過ごしでしょうか。勉強、部活、バイト、ゲーム等充実していますか。私が在学していたときは、ポケモン GO が流行っていたので、友達と自転車を乗り回していました。

早速本題に入りますが、今回は「私が学生時代にもっとやっておけばよかったな」と感じたことについてお話します。単刀直入に言うと、「趣味を増やす」ということです。趣味を増やすと様々なメリットがあります。

その中の一つに、コミュニケーション能力の向上があります。疑問に思う人もいるかもしれませんが、本当です。例えば、「初対面の人と 10 分間話してください」と言われたら結構大変ですね。でもこれが「“同じ趣味を持った” 初対面の人と 10 分間話し



てください」に変わるだけでだいぶハードルが下がると思います。

私は、大学、会社等で様々な人に出会う中で、「趣味」から距離が縮まることが多くあったため、もっと

力を入れておけばよかったなと感じました。

社会人になってからは、平日は仕事、休日は休息や既存の趣味、家庭等があるため、新しい趣味を始める時間と体力を確保するのが難しいと思います。在校生の皆様、講義やレポート、部活等で忙しいと思いますが、ぜひ時間を見つけて趣味を増やしてみてください。面接やインターン、私生活等で、もしかしたら役に立つかもしれません。

在校生の今後の活躍を祈念し、皆様へのメッセージとさせていただきます。

在学生の皆さまへ

平成 23 年度 情報工学科卒業 盛田 詩織

皆さんこんにちは。私は十年前に情報工学科を卒業した盛田と申します。卒業の際は高専だよりへ感謝の言葉を掲載しました。今回で二度目の高専だよりです。社会人として思ったことが少しでも皆さんの役に立てればという思いで筆をとります。

皆さんは「自分で決める」ことをしていますか。無意識に行う場面以外で決めるというスキルは人生において非常に重要だと思っています。……いきなり何の話だと思うでしょうがお付き合い下さい。身近な例にしてみます。

深夜遅い時間、アイスを出されたらあなたは食べますか。食べるか食べないか、この時あなたは必ず決めるというプロセスを踏みますね。食べるぞ！と決めて食べた場合、食後に反省するかもしれませんがそこまで罪悪感や沸かないと思います。では、とりあえず食べた場合、もしくは最後まで悩みながら食べた場合はどうでしょうか。

心理学では原因や責任の在り処を明確にすること

を帰属と言い、帰属は内的要因と外的要因に分かれます。先ほどの例だと食べることを反省した場合に、食べることを決めたのは自分だと考えるのが内的要因で、アイスを出した人が悪いと考えるのが外的要因になります。

意識的に決めることは、内的要因で考える習慣作りのことです。外的要因は自分でコントロールすることができないため、内的要因で考える習慣が無いと他人や環境に振り回されやすくなってしまいます。COVID-19 で世の中の環境は大きく変わりました。嫌なことを外的要因だけで考えてしまいがちではないでしょうか。

何かを決めるには、よく考える必要があります。結果としてその物事に対する意見が言えるようになりますし、自分で決めたという責任もついてきます。私は、常識的な範囲であれば選んだ行動に正解不正解は無いと思っています。基準は人それぞれです。自分で決めることでその選択をまず自分自身が肯定できますように。皆さんの学生生活を応援しております。

在校生の皆さんへ

平成 31 年度 都市環境デザイン工学科卒業
榎園 麻実

私は、卒業後橋梁メーカーで働いています。橋梁メーカーというとあまり聞きなじみがないかもしれませんが、主に鋼橋の設計や工場製作から、現場施工までを行っています。私の会社は、鹿児島県内では大隅半島から桜島に架かる牛根大橋の製作にも携わりました。

現在、橋の架設方法などを考える計画の業務を行っており、架設に使うクレーンの選定をしたり、足場などの仮設の検討をしたりしています。入社して2年目になりますが、知識や経験が足りず学ぶことばかりです。入社当初は、自分に務まるのか、現場の環境に慣れていけるのかなど、様々な不安もありましたが、それ以上に実際に橋が出来上がって行くところを見ることで、とてもやりがいを感じています。

私が就職先に橋梁メーカーを選んだのは、高専で2度デザコンに参加し、橋の模型を製作したことが



きっかけでした。釧路大会では入賞することができ、良い思い出になっています。デザコンを経験していなかったら、橋に興味を持つこともなかったですし、今の仕事も選んでいなかったと思います。

授業で学んだ構造力学や測量学が、今の仕事に多く活かされています。構造力学は、仮設の設計をする時にとても重要です。施工現場では測量を頻繁に行います。学生の時は、テストのためだけに勉強していたようなものだったので、中身を十分に理解しておらず、仮設計画など最初は苦戦しました。成績には直接関係しなくても、学生の間にできる限り色々なことに挑戦したり、経験したりしてみてください。

近況報告

平成 22 年度 機械・電子システム工学専攻修了
蒲地 悠介

17年前の、とても日差しが穏やかな春らしい日に、初めて高専の寮に足を踏み入れたときのことを今でもよく覚えています。

静まり返った寮のあちこちに置かれた洗濯機を見て、今日からここで暮らすという現実には不安になっていました。

それからは夢のような7年間でした。

数学で赤点を取ってみたい、イメージと違う専門教科に「退学」の2文字が頭をかすめたり、寮で大騒ぎして怒られたり、過去問を皆で融通しあったり、テスト期間には勉強を教え、テスト明けにはカラオケに行ったり、高専祭 DVD を徹夜で編集して、レポートに追われて、人を好きになって（フラれました）、誰かの恋路を応援して（成就し後に結婚）、友達と喧嘩して、仲直りして、論文に追われて、進路で悩んで、大学編入を諦めて専攻科に進んで、論文とバイトと飲み会に明け暮れて、そして卒業と同時に就



職して、東京に引っ越しました。

それからの10年は怒涛のように過ぎました。

有名大学卒の同期に圧倒されて、居酒屋で未来を語り合ったり、スキーやキャンプに行ったり、人を好きになって（フラれました）、仕事の厳し

さに「退職」の2文字が頭をかすめて、帰省をきっかけに高専の元同級生と遠距離恋愛して、仕事が辛くて泣きながら電話して、同棲を始めて、仕事に食らいついて、東京タワーでプロポーズして、鹿児島に帰りたくなくて、辞める旨を伝えたら鹿児島の子会社に転職させてもらって、彼女が妻になって、子どもが生まれて、仕事の立場がリーダーが変わって、仕事から帰って家族でご飯を食べて、子どもをお風呂に入れて、また少し仕事して、休日には家族でイオンに入り浸る生活をしています。

社会人になって

令和2年度 電気情報システム工学専攻修了
川原 圭裕

私は、去年に鹿児島高専の専攻科、電気情報システム工学専攻を卒業しました。そして現在は就職し、ソフトウェア開発業務に携わっております。

社会人になって、実際に働き始めると学生との違いが身に染みてわかりました。まず私が感じた事は、自由時間が少ない事です。これは、休みがないというブラックな意味では無いです（笑）。自立して家事等のやらないといけないことに時間を使うため、自由時間が少なく感じるということです。学生時代は、実家から通っていたので、家事等に時間を取られる事なく自分がやりたいことを自由にやれていたわけです。振り返ってみると、とてもありがたいことだったと感謝すると共に、大人になったのだと自覚しました。

次に感じた事は、コミュニケーションの重要性です。業務を行う中で、多くの人と関わります。その中で、お互いの認識をすり合わせる事が何よりも大切です。認識にギャップがある状態で仕事を進めてしまう



と、後々にやり直しが発生する羽目になってしまい損失が生じます。また、相手がイメージしていることを相手が正しく言語化できることは少ないです。相手が本当はどうしたいのか、こちらから質問して要望を抽出する必要があります。業務

を効率よく行うために学生の時以上に密にコミュニケーションを取ることが重要なことだと感じました。

また、私が在学時にやって良かったと感じたことは、なにか目標を立てて実行してみる事です。私は、在学時に3年間E Tロボコンに参加しました。この時の画像処理に関する知識やトライ&エラーで課題解決をする経験がそのまま業務で役に立っています。時間に余裕のある学生のうちにチャレンジできたのは良い経験だったと思います。

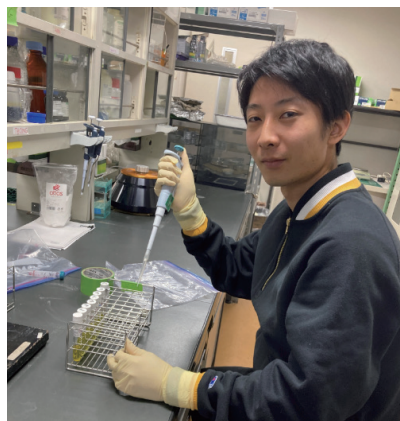
以上、私が鹿児島高専を卒業し、実際に業務してから感じたことを挙げてみました。これらの私の経験が、なにか皆様の役に立てれば嬉しいです。

ベストを出せる習慣

令和2年度 建設工学専攻修了 徳永 翔一

私は建設工学専攻を修了し、長岡技術科学大学大学院工学研究科に進学しました。今回は大学院での研究生活を送る中で感じたことについて、少しお話しさせて頂きたいと思います。

現在、私は水処理や処理した水の供給プロセスをテーマに企業と連携した研究開発を行っています。企業の方々から頂けるご助言は勉強になることが非常に多く、自分の未熟さを痛感するばかりです。中でも「スピード感」という部分に関して、これまでの研究生活との違いを感じました。企業の方々には「特許」、「商品化」の部分に焦点を当てているため、企画・提案から実行するまでの時間をとても早く感じました（私感です）。いくら素晴らしいアイデアや製品であっても他社が先に出版していれば権利は取得できません。限られた時間の中で良いモノを開発しなければいけないのです。高専での研究生活は自分のペースで行うことが多く、期日に追われて成果を出すという経験はほとんどありませんでした。最

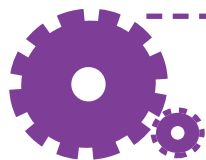


近は少しずつ対応できるようになってきた気がしますが、やるべきことは山積みです。

限られた時間の中で成果を出すという行動は研究活動に限りません。学校の

定期考査、資格試験、部活動の大会なども似たようなものです。別に過度に意識して行動する必要はありません。手を抜けるところを見つけることも大事なことです。費やした時間と成果が比例する保証はありません。しかし、初めから上手くやれる人は少ないと思います。全力に近いパフォーマンスを出すには日頃の慣れが重要です。追いこまれてからではなく、日頃からベストを出せる習慣を身につけておくことをお勧めしたいと思います。

最後に皆さんの今後の活躍を祈念し、メッセージとさせていただきます。



ご寄附 いただきました



株式会社エンデバー
代表取締役 高橋 忠仁

寄附の経緯・経歴紹介

令和3年9月7日（火）に本校同窓会館を訪れられ、高専生の育成のために役立ててもらおうと寄附の申し出があり、10月12日（火）には、高専機構本部において、谷口理事長と氷室校長から感謝状の贈呈がありました。

寄附金は、学生一人ひとりが自らの意思で将来のキャリアを描き、ありたい姿になれるよう挑戦・成長できる環境と機会を創出するために使わせていただきます。大変ありがとうございました。

【経歴】

- 1948年 鹿児島県屋久島生まれ
- 1982年 株式会社PALTEK設立
代表取締役社長
- 1995年 株式会社エンデバー設立
代表取締役（現任）
- 2012年 株式会社PALTEK
代表取締役会長
特定非営利活動法人
ベンチャー支援機構MINERVA
理事長（現任）
- 2021年 株式会社PALTEK
代表取締役社長（現任）
株式会社レスターホールディングス
代表取締役（現任）

高専生へのメッセージ

在校生、卒業生の皆様へ。

今回、下記のような想いから鹿児島高専、国立高専機構に合計1億円の寄附をさせていただきました。

人類はこれまでの数世紀の旺盛な産業活動の結果、地球環境を棄損し自らの持続的な発展を困難な状況にしまいました。



（高専機構本部での感謝状贈呈式にて）

CO2、メタンガス等々の温暖化により激しい気象の上下動（洪水、干ばつ等）を招き、永久凍土が溶け出し未知のウイルス出現の危機を招き、マイクロプラスチックで世界中の河川、湖沼、海の生態系を壊しつつあります。

私が在校生当時も国内外で公害問題（水銀汚染による水俣病、カドミウム汚染によるイタイイタイ病、工場排気大気汚染による四日市ぜんそく、生活排水汚染による東京湾の死の海化等など）多発しておりました。

しかし、それぞれ地域住民による粘り強い活動、各企業等の努力、なかんずく多くのエンジニアの新しいテクノロジー開発の結果殆どの環境破壊を改善出来ました。

しかし半世紀前は局地局所的な問題でしたが、今回は時間猶予がない地球規模の問題です。新しいテクノロジー、発想、アプローチが必要です。

皆さんに素晴らしい大きな活躍の場が待っています！

ピュアな想いで勉学に励み、将来の地球環境改善の一助を担って下さい。

私が鹿児島高専を出て50年間の社会で多くの実経験（挫折と成功）をし、国内外の多くの方々と触れ合ってきました。その体験から知りえた事は利己主義（自分のみの為だけ）ではなく利他主義（世の為、人の為）の生き方をした人々のほうが人生の自己実現の確率が高い事です。非常に不思議な実感です。

皆さんの将来への果敢なるチャレンジを心からお祈りしております。

高橋 忠仁



教職員の動向 (退職のご挨拶)

保護者の皆様へ

一般教育科 白坂 繁

1987（昭和62）年より、お世話になった鹿児島高専を定年退職することとなりました。保護者の皆様には、いろいろとお世話になりました。有難うございます。

在職中は、機械工学科を4年、電気電子工学科を2年、電子制御工学科を2年、情報工学科を1年、土木工学科を2年、都市環境デザイン工学科を2年、担任させていただきました。サポートが十分でなかった点多々ありました。お詫び申し上げます。教えた学生が、保護者となって再度面会する高専ならではのサプライズも体験できました。皆様の良い学生に恵まれて幸せでした。

また、在職中、図書館長2年、寮務主事2年、学科主任2年、学生主事を2年いたしました。これも、皆様のおかげをもちまして、大過なく終えることができました。重ねて有難うございます。

更に、県教育公務員弘済会教育論文最優秀賞、国立高専機構理事長奨励賞、鹿児島市社会体育功労者賞もいただきました。保護者の皆様の支えがあっての賞と感謝しております。

専門の数学以外にも、（1）「降灰」は辞書的には「コウカイ」（2）なぜ鹿児島では「柊（ヒイラギ）」を「くぬぎ」と読むのか（3）「ラーフル」の語源は蘭語の「Rafel（こすること）」（注：本校上村元教授の詳しい論文がネット上で読むことができる）（4）電流の「i」はintenseの頭文字（5）絆創膏（カットバン）の袋は開けるときに光る（6） $\sqrt{3}$ の語呂合わせ「ヒトナミニオゴレヤ」は「奢る」ではなく「驕る」（7）「School of MEDAKA」は「メダカの学校」ではなく「メダカの群れ」（8）「タケコプター」は意味的には「タケプター」…等々、いろいろな発見ができました。

本校の恵まれた環境と博学多才の同僚、刺激を与えてくれる学生諸君、そしてなによりも寛容にして寛恕な保護者の皆様のおかげで、わがままな好奇心を満足させることができました。本当にありがとうございます。

言葉足りませんが、保護者の皆様への感謝の辞といたします。ありがとうございます。

本科卒業？

事務部長 今村 文昭

2022年3月を以て、定年退職となります。

1982年4月国家公務員「文部事務官鹿児島大学歯学部総務課に採用する。鹿児島大学長」との発令を頂いてから、瞬く間に定年を迎えるといった感があります。この間を振り返ると、まずもって2004年（平成16年）の法人化に触れる必要があります。国家公務員から大学は大学法人職員へ、高専は独立行政法人職員に身分が変わりました。多くの方の反対はあったものの、非公務員型の法人に法人化された事に関しては、驚きと一抹の寂しさを感じたことを思い出します。法人化されたことが良かったのか、公務員時代に比べて、高専や大学が良くなったのか、約18年経った今でも不明な部分が多いような気がします。

さて、個人的には2008年（平成20年）からは管理職として、有明高専、鹿児島高専、都城高専、琉球大学、沖縄高専そして最後が、再び鹿児島高専の勤務となりました。鹿児島高専には以前3年、今回2年の計5年間勤務しました。この5年間の勤務が職員として、本科卒業できるだけの単位（業績を上げられた）を取れたらと思う、振り返ってみると、以前の3年間では①隼人—本校間のバスを走らせる事が出来た②都市環境デザイン工学科の660㎡を機構に嘆願し増築できた③管理棟改修や旧女子寮の改修を行った④50周年記念事業を行った。今回の2年間では⑤厚生会館の食堂改修等を行った⑥正門改修並びにミニコンビニ設置を計画（本誌が印刷配布される頃に完成されていると良いが）どの事業も特に総務課職員の協力のもと達成出来たことは言うまでもないが、自分なりにこの6つの事業に携わり、それなりの成果を上げられた事には、達成感も充実感もあり、細かなミスはあるかもしれないが、本科卒業の資格はギリギリ得られたのではないかと考えています。我々職員は裏方として学生の皆さんの修学環境や教職員の研究や働きやすい環境を提供することが本務です。幾らばかりかでも貢献できた事に満足しながら定年を迎えられることは、何にも代えがたい嬉しさがあります。鹿児島高専の教職員・学生の皆様に衷心より感謝いたします。

昭和38年度設立の鹿児島高専は令和5年度（昭和98年度）に60周年を迎えます。還暦を機に更なる発展を遂げられることを祈念いたします。5年間、有難うございました。

教職員の動向 (新任教員紹介)

新任のご挨拶

電気電子工学科 佐藤 正知

令和3年4月1日より電気電子工学科に着任いたしました佐藤正知(さとう ただとも)と申します。着任する以前は、瀬戸内海の離島にある広島商船高専(下図左:研究室からの眺望)で教育・研究活動を行っておりました。

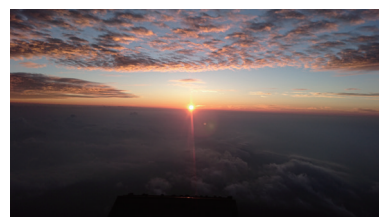
私の出身は神奈川県横浜市ですが、母の実家が阿久根市にあり、幼少の頃から定期的に遊びに来ておりましたので、鹿児島は大変親しみ深い土地だと感じております。電気電子工学科棟の居室からは桜島を望むことができ、瀬戸内海とは違った雄大な景色を眺めながら、日々の授業の準備や研究活動に励んでおります。

趣味はトレッキング程度の山登りです。鹿児島に来てからは屋久島へ縄文杉を見に行きました。また、こ



の2年間はコロナ禍で登れていませんが、富士山には毎年のように弾丸登山で登っています。一昨年に山頂で撮った過去最高の御来光の写真(下図右)を載せます。

研究内容としては、スマートフォンや無線LANなどに代表される無線通信の物理層の要素技術である誤り訂正符号や変復調を用いて、MIMOと呼ばれるマルチアンテナシステムの性能改善を目指して研究を行っています。近年5Gの商用サービスが開始されていますが、ミリ波帯を利用した数Gbpsを実現する超高速通信が利用できるエリアは一部の地域に限られています。ミリ波帯では小形のアンテナを集積化することで大規模化なMIMOを実現できる一方で、信号処理量や電力消費量の増大が問題になります。そこで、伝送特性の劣化を抑えつつ、ハードウェア量を低減する手法や計算負荷の少ないビット検出手法の検討を行っています。研究は卒研生と一緒に和気あいあいとした雰囲気です。

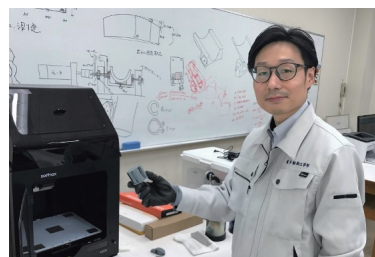


自己紹介

電子制御工学科 谷口 康太郎

- ①出身地は? 鹿児島県南さつま市
- ②好きな食べ物 Backerei danken のパン
苦手な食べ物 ピーマンの塩昆布和え
- ③趣味は? 20代の頃はスノーボードやテニス、星景写真、吹奏楽(パーカッション)等、色々やりましたが、最近は子育て、家事?
- ④どんな科目を担当されていますか? CAD、電子回路、工作実習、工学実験、創造設計
- ⑤専門分野と研究テーマについて教えてください。

私は大学で機械工学科に入り、卒研で制御系の研究室に入りました。大学卒業後は民間企業で自動車の内装・電装の設計開発業務を約6年間経験し、3D-CADやCAE、3Dプリンタを使って設計検討を行っていました。その後、鹿児島大学にご縁があり、技術職員として機械工作、製図、3D-CADの教育支援や制御系研究室での研究支援をしており、その傍ら脳卒中片麻痺患者のリハビリテーション装置の研究も行っていました。



これまでの経験を活かして、高専でもCADや3Dプリンタをはじめとするデジタルエンジニアリングと制御を組み合わせる研究をしたいと思っています。最近ではスマート農業の分野にそれらの技術を活かせないかと、鹿児島大学との共同研究もスタートしました。

⑥学生たちへのメッセージ

高専の魅力は大学より早く専門性を高め、社会で活躍できることだと思います。また、進路の選択肢も広く、自分の希望や適性に合った進路選択も可能です。就活すると分かりますが、皆さんのライバルは大学生・大学院生です。企業経験等を話しながら、分かりやすい授業、面白い研究ができるよう頑張っていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

自己紹介

情報工学科 中才 恵太朗

①出身地は？ 大阪生まれ、奈良県育ちです。

②好きな食べ物 アイス・お茶が好きです。

苦手な食べ物 苦手な食べ物はありません。

③趣味は？ ボードゲーム、人狼ゲーム。

④どんな科目を担当されていますか？

1年の情報基礎、3年の言語処理系、5年のシステム設計学、4年生の工学実験を担当しています。

⑤専門分野と研究テーマについて教えてください。

専門分野はソフトウェア工学です。皆さんは日常的にソフトウェアを利用されていると思います。ただし、予定通りに期待したような品質のソフトウェアを開発することは容易ではありません。スマホゲームをプレイした時、長い緊急メンテナンスに遭遇したことはありませんか？このような状況を生み出さないため、生まれた学問分野がソフトウェア工学です。特に、ソフトウェア開発の際に作成される開発履歴を分析して、役立つ知見を発見するソフトウェアリポジトリマイニン



グや、ソフトウェア開発者のスキルやメンタル状況を生体情報によって分析するといったことに興味があります。今、卒研生が取り組んでいるテーマの一部を紹介します。

卒業研究では、学生と相談し、研究テーマを設定しています。ポケモンが好きな学生は、ポケモン対戦初心者を対象とした、リアルタイム対戦補助ツールの開発に取り組んでいます。このテーマは学生との対話で生まれた研究テーマです。ゲームなんてただの遊びではないかと思われるかもしれませんが、コンピュータゲームを競技として扱うe-sportsが注目されておりこれを支える技術研究が盛んに行われています。学生との対話により、私の知らない新しい領域の研究に取り組むことができ充実しております。

⑥学生たちへのメッセージ

高専では、早くから専門分野に取り組むことができます。この機会をうまく活かし、自分のやりたいこと、面白いことにチャレンジしてください。

少しずつ進む

都市環境デザイン工学科 安井 賢太郎

①出身地は？ 宮城県宮崎市

②好きな食べ物 レバ刺

苦手な食べ物 椎茸

③趣味は？ 釣り

④どんな科目を担当されていますか？

コンクリート工学、鉄筋コンクリート工学、応用材料学、建設材料学、材料学実験、鉄筋コンクリート工学実験

⑤専門分野と研究テーマについて教えてください。

環境と調和した土木材料の開発が主です。

- ・焼成した火山性土を用いた歩道ブロック
- ・エノキダケ廃菌床を混合した漁礁ブロック
- ・バイオマス燃焼残渣混合ジオポリマー
- ・マイクロカプセル混合材料の劣化抑制
- ・ドローン / SfM 画像処理を用いた構造物点検

⑥学生たちへのメッセージ

令和2年10月1日より都市環境デザイン工学科に着任しました安井賢太郎と申します。

皆さん、勉強、部活、遊び、恋、研究、…本気で
すか？鹿児島高
専は皆さんの本
気に応えること
が出来たフィー
ルドです。本気
のスイッチが入
る時期は人それ



ぞれで違います。私は、22歳でした。東京で大きな土木・建築構造物を見て、自分も何か生きた証を残したいと思ったことがきっかけです。皆さんは今何歳ですか？当時の私より若いし、今本気になればできる事は無限です。本気になって疲れたら休んでまた本気になる。心が満たされ、幸せに向かって少しずつ進んでいるはず。私は、本気で頑張る皆さんを応援しますし、本気になるきっかけを与えることが出来れば良いと思っています。今、何をすれば良いか分からない人は、一緒にコンクリートを練りましょう。楽しいですよ！

新任のご挨拶

都市環境デザイン工学科 池田 匠児

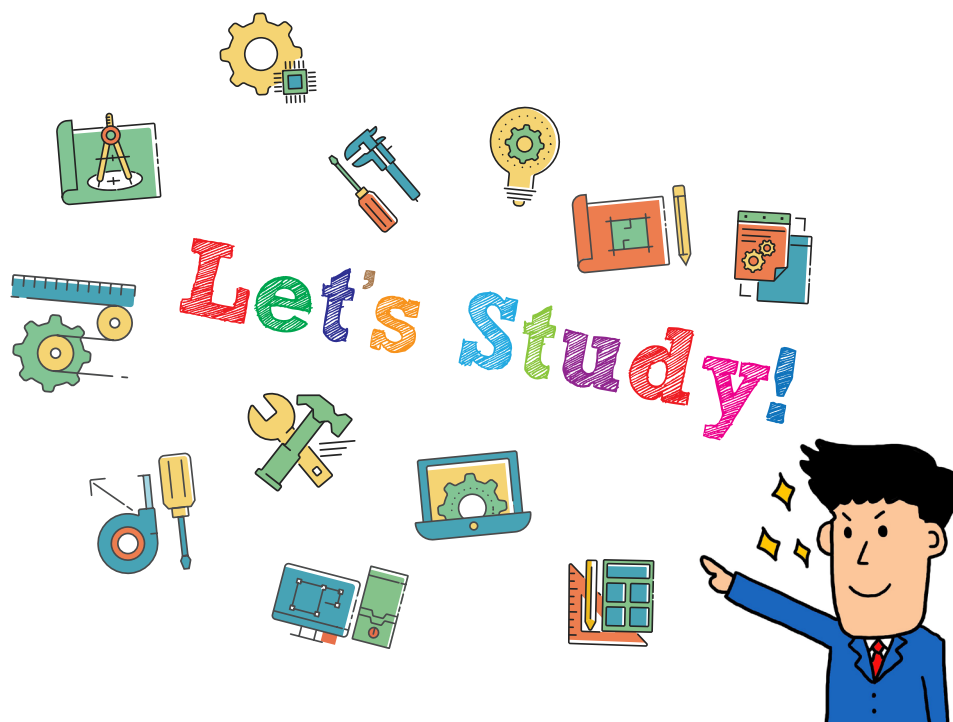
- ①出身地は？：鹿児島県霧島市
- ②好きな食べ物：カレーライス
苦手な食べ物：カリフラワー
- ③趣味は？：ボードゲーム、スノーボード
- ④どんな科目を担当されていますか？
 - ・測量学実習 ・材料学実験
- ⑤専門分野と研究テーマについて教えてください。
専門分野：土木環境システム
 - ・きのこ廃菌床を対象としたカスケード利用技術の開発
 - ・下水汚泥を活用した農作物の連作障害抑止効果のある土壌改良資材の開発
- ⑥学生たちへのメッセージ

令和3年4月から都市環境デザイン工学科に着任いたしました、池田匠児（いけだしょうじ）と申します。鹿児島県生まれで、鹿児島高専都市環境デザイン工学科一期生でもあります。鹿児島高専には専攻科までの7年在籍しており、自身を成



長させていただいた本校に教員として戻ってることができ深く感謝しています。

私が学生のころを振り返ると、「もう少し遊んどけばよかった」と思うことがあります。なので在校生の皆様には、高専生活を目一杯楽しんで社会に羽ばたいてもらいたいと考えています。そのために精一杯サポートしていきますので、成績や進路等で悩むことや困難に直面した時は、私たち教員が支えとなってあげられることを覚えておいてください。まだまだ未熟ですが、学生の皆様と共に成長していきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。



コロナ対応と次年度の変革

教務主事 松田 信彦

令和3年度は、特に前学期については、昨年度からの新型コロナウイルスに関連した事案に振り回されてきた。特にゴールデンウィーク前後に、五月雨式に本校学生にも感染者が出て、そのたびに臨時休校を繰り返すこととなり、結局、県内の感染状況も拡大傾向にあったため、5月の後半2週間を完全に休校とし、その間は遠隔授業としてきたが、臨時休校の分も含め、実験・実習が大きな影響を受けた。また休校期間が中間試験直前ということもあり、試験期間を1週間延期するとともに、出来なかった実験・実習のための特別時間割を編成するなど、対応に苦慮したが、学生・教職員の協力のおかげで、なんとかすべての実験・実習を前期中に終わらせることができた。

後期になってからは、ご存じのとおり県内、そして国内でも、急速に感染者が減少しており、この原稿を執筆している12月上旬現在では、県内の感染者はほぼ0の状況で、本校の授業も、極めて順調に進んでいるが、第6波や変異株の問題もあり、今後感染対策には万全を期したい。

10月以降急速に感染者が減った原因はまだはっきりしていないものの、予防接種がすすんでいたことを原因に挙げる専門家も少なくないが、本校でも10月下旬に、学生のコロナワクチンの接種状況を調査した。10月末の時点で、2回接種済みの学生が63%、1回は接種済みの学生が13%で、合計76%の学生が、少なくとも1回は接種している状況であった。実に4人に3人が接種をしている計算になるので、今後油断なく、これまでどおりの感染対策（マスク着用・3密の回避・手指消毒など）を継続していけば、校内での大きな感染も防げよう。

なお、本校としては、予防接種については、あくまで本人および保護者の判断で接種してもらうことを原則としている。学校として、接種の推奨や、まして未接種の学生を区別することはないが、学内行事を計画・実施するに当たり、接種状況は重要な判断材料となるため、今後も定期的に調査をし、状況の把握に努めたい。

ところで、教務関係の行事として、4年生のインターンシップがある。これは、実際に就職活動に入る前に、1週間程度の企業体験をしてもらう正規の

カリキュラムである。しかし、例年8月・9月に実施している企業が多く、今年は、ちょうどその時期に、日本全国、そして鹿児島県内でも、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発出されて、学生も思うように参加できない状況が見られた。もちろんオンラインでの開催もあったが、本来の企業体験という趣旨からみれば十分ではない面もあったかと思う。その一方で、本校学生にもインターンシップについて、少し認識が足りない学生が出てきた。コロナで参加を見合わせることはやむを得ない状況ではあったかもしれないが、あまりに安易に参加を取りやめるケースや、何かのイベントに参加するような軽い気持ちでいる学生も見られたのは、本校として非常に残念なことである。インターンシップは、本校（学生）と企業との契約の上に成り立っており、しかも本校の正課のカリキュラムとして実施している。また企業の方も、受け入れるために時間と労力を割いて準備してくださっているので、直前にキャンセルをするということが、どれだけ先方に迷惑をかけるかということも含め、これまでに口を酸っぱくして指導してきたが、今後、今まで以上に指導する必要性を改めて認識している。

最後に、来年度に向けて大きな変革について紹介したい。来年度から、1年次を混合学級とすることになった。入学時はそれぞれの学科に入学するものの、1年生のクラス編成は、どのクラスにもすべての学科の学生を均等に配置する。また、それに伴い、令和4年度新入生から新カリキュラムを導入し、たとえば1年次には、共通実験（工学基礎実習）を取り入れ、すべての学生にすべての学科の実験・実習を体験してもらえるようにした。これにより、幅広い視野を持ったエンジニアの育成を目指す。また、2年次・3年次には、リベラルアーツⅠ・Ⅱを配置し、既存の一般教育科目では教えられない、幅広い視野にたった教養教育や、リーダーシップの育成につなげる。

また、BYOD（Bring Your Own Device の略）の導入で、原則として、すべての新入生が自分のPCを準備し、授業時に活用することはもちろん、レポートの提出やオンラインでの補講なども、各自のPCを使用し、高専生として必要なPCのスキルを身につけるようにしていく。

今後も新しいチャレンジを続けていきたい。

総務企画・キャリア支援・男女共同参画

総務企画主事 岸田 一也

(1) 総務企画委員会とは

総務企画委員会は今年度から新たに設置された委員会となります。総務企画委員会の主な役割は、『鹿児島高専のPDCA サイクルを回していく』ということと、『新しいやり方を提案・実践したり、既存のやり方の改善を行ったりする』こととなります。また、総務企画委員会は、総務企画主事が所管している広報センター、キャリア支援室、FD 専門委員会、男女共同参画などの仕事も担っており、仕事の範囲が多岐にわたっています。総務企画委員会の仕事を通して鹿児島高専の魅力を高めていくことが大事だと考えていますので、委員の方々と協力して頑張っていきたいと考えています。

(2) 総務企画委員会の中心メンバー紹介

総務企画委員会の中心メンバーは、副校長・総務企画主事の電子制御工学科 岸田一也教授(写真1列目中央)、総務企画主事補兼キャリア支援室長の電気電子工学科 今村成明准教授(写真1列目右)、総務企画主事補 町泰樹准教授(写真2列目右)、総務企画主事補 白石貴行准教授(写真2列目左)、副校長補佐(男女共同参画担当)新徳健准教授(写真1列目左)の5名となります。主事補、副校長補佐の先生方は30～40代で、これからの鹿児島高専を背負っていただける期待の持てる先生方となっています。

(3) キャリア支援室だより

キャリア支援室長 今村成明

キャリア支援室は、今年度から新しく設置されました。メンバーは、私(今村)と白石貴行先生です。キャリア支援は、就職活動支援だけでなく、インターンシップ活動支援、学習支援など多岐にわたります。今年度のキャリア支援室の主な業務は、本校のキャリア支援活動の整理・企画、就職・進学指導のガイドラインの作成、求人管理システムの選定などです。

今年度、開催予定の主なイベントとして、令和3年12月18日に開催した「合同企業セミナー」と令和4年3月に開催予定の「ヘア・メイクアップ講座」があります。合同企業セミナーは、当初、88社の企業に参加いただき、対面方式にて実施する予定で

したが、新型コロナの影響により、学内LANを使用したオンライン(Live)開催に切り替えて実施しました。また、今年度の新たな取り組みとして、女子学生向けのヘア・メイクアップ講座を開催予定しています。

これから、鹿児島高専版のキャリア支援活動を充実させていきたいと考えています。

(4) 男女共同参画だより

副校長補佐 新徳 健

今年度より男女共同参画推進は副校長(総務企画主事)の管轄となり、担当者は副校長補佐(男女共同参画担当)へと変わりました。

今年度の男女共同参画推進の取り組みの一つとして、女子学生用更衣室の整備が行われました。これまではいろいろな場所に小さな更衣室が分散していたのですが、それを一ヶ所に集約し、維持管理をやすくしました。場所は校舎地区の中心に近い、学生共通棟Bの2階です。

この更衣室の入り口は外扉と内扉の二重となっており、内扉には暗証番号式の鍵が設置されています。また、外扉の出入りを内側から写す防犯カメラも設置されています。女子学生は入学時から卒業まで、同じロッカーを個人用として割り当てられ、5年間通して使用することができます。女子学生の皆さんで協力して、綺麗な更衣室を維持してもらいたいです。

できたばかりですので、不便に感じるなどあるかもしれません。今年度運用し、実際に使用する女子学生から使用に関する声を集約し、改善していければと思っています。



ポジティブが生み出す効果

学生主事 北蘭 裕一

「ナイスシュート!」、「今の良いパスだったね。」、「素晴らしいセービングだったよ。」、「今日のゲーム、最高!」、「次はもっと出来るよ」

サッカーの指導現場でも、少しずつではあるが、このようなポジティブな言葉が増えてきている。狙いはもちろん、選手の積極的なプレーを生み出し、気分よくプレーしてもらい、サッカーを楽しんでもらうためである。このような肯定的な言葉掛けにより、選手がのびのびとプレーすると、どんどん良いプレーが出てくる。そうすると今度はコーチのポジティブなコーチングが益々増えるという好循環が生まれる。私はこんなコーチ像を描きながら、日々鍛錬中である。

また、以前（もう20年近く前になりますが）、私が小学校の教員をしていた時、帰りの会の会順の中に、「良いところ探し」という枠を作っていた。

「今日、Aさんが給食の時間に自分から給食台を拭いていました。おかげでピカピカでした。」

「今日の体育の時間、なかなかボールが回ってこないBさんに、Cさんがボールを譲ってくれました。Bさんもとても喜んでました。」

「Dさんが靴箱のくつを綺麗にならべてくれました。」等、クラスメイトの良いところを発表する時間である。皆さんも経験があるかもしれないが、私にとっては、とても有意義な時間であった。

狙いとしては、友達の良いところを見て欲しいという願いと、仲間を気に掛ける意識を身に付けて欲しかったからである。

発表した側も満足げな表情をしているし、名前を

挙げてもらった側も、恥ずかしそうにしながらも嬉しそうな表情をしている。最初の頃は、名前が挙がる児童も限られているし、発表する児童もそれほど多くはない。しかし、月日経っていくうちに、今まで挙がったことの無い名前が聞こえたり、これまでに出来たことの無い行動が発表されたりと、徐々にではあるが幅が出てきた。その中で、次は私が、私も、という雰囲気になっていったことを、はっきりと覚えている。さらには、その発表一つひとつから私にも大きな学び・気づきがあった。そして、クラスの雰囲気は益々よくなり、本当に仲の良いクラスになってくれた。

私は、鹿児島高専はとても良い学校だと思っている。学生も素晴らしい。夢に向かって勉学や研究に励む学生、元気な声で挨拶する学生、素敵な笑顔で談話する学生、必死になって部活動に取り組む学生、友達の相談に真剣に耳を傾ける学生。その中で、この多種多様な学生へ真摯に向き合い、愛情持って学生支援に取り組む教職員も素晴らしいと感じる。私はこんな素敵な学生・教職員がたくさんいる鹿児島高専が大好きである。そして教員という仕事にやりがいを感じながら、毎日充実した日々を過ごさせてもらっている。これも全て、学生のおかげである。元気な学生からパワーをたくさんもらっている。だからもっともっと全ての学生が楽しめるような学校になればと切に願い、自分らしさを出しながら、可能なことをポジティブにトライしていきたい。

元気な挨拶と明るい笑顔の花が咲き誇る鹿児島高専、共に創っていきましょう！



一年を振り返って

寮務主事 室屋 光宏

今年度の学生寮は、昨年度から引き続き新型コロナウイルス感染症の対応に追われました。このような平時とは異なる一年の振り返りやトピックをご紹介します。

○新型コロナウイルス

冒頭にも書きましたように、今年度前半、新型コロナウイルス感染症対応に終始しました。4月下旬には学内で感染者が確認され、急遽閉寮措置をとることになり、寮生や保護者の皆様には大変なご負担をおかけしました。その後も、感染者が確認される度に緊急措置が敷かれるなど、寮生は落ち着かない日々を過ごしてきたかと思います。ただ幸いなことに、ここまでは在寮時の感染者は確認されておらず、寮生の感染予防に対する意識の高さを感じました。ワクチン接種の広がりもあり、感染状況は年末にかけて低水準に落ち着いてきていますが、新たな変異株の出現など、新型コロナウイルスの先行きは見通しがつきません。しばらくは基本的なマスク着用、手指消毒、そして密状態の防止など、感染予防対策は今後も継続することになりそうです。

○学寮行事

4月から5月にかけては、入寮式をはじめ、新入生歓迎のための寮マッチ、学習の習慣を身に着けるための1年集合学習、そして専攻科生が学習面でのサポートを行う学寮チュートリアルなど、留学生を含む新入生が寮生活に馴染んでもらうための各種取り組みを用意していたのですが、感染予防の観点から、これらはすべて中止、延期されました。このため、先輩方との交流の機会も制限され、学生寮の特長である寮生同士の縦や横の繋がりをなかなか深めることができなかったと思います。ただ、そのような中でも基本的な生活を共にすることで、時を経るごとに順応している様子が見えてきました。一方、後学期は新規感染者が低水準に落ち着き、中間試験に向けた学寮チュートリアルを実施することができました。1月には寮長選挙を兼ねた寮生パーティも実施予定ですので、遅ればせながら、学寮の醍醐味を体験してもらえたものと思います。

○顔認証システム

本年度より女子寮に顔認証技術による点呼システムの機材が導入されております。これは、寮舎内に設置されたカメラ付きのタブレットに顔を向けることで、顔画像が登録されている寮生一人一人を判別するものです。本校の学生寮は、点呼時に使用する点呼簿ははじめとして、外出時の紙のカード提出、大会参加などの外出時に提出する届など紙とペンによるシステムが、二、三十年変わらず、今も続いています。本システムは、そこを解消する一つの取り組みで、非常に期待するところがあります。現在検証試験を進めており、問題点をひとつずつ解決しながら本格的な運用に向けて取り組んでいます。



○第二志学寮改修

まずは、本工事に伴い後学期からは多くの寮生のみなさんには自宅通学に切り替えていただきました。ご協力いただいた皆様に感謝を申し上げます。本工事は今年度中に終了し、来年度より運用開始予定です。基本的なレイアウトは、ほぼそのままに改修が行われます。居室としては改修前3人部屋での運用でしたが、改修後は一部に1人部屋があるものの、基本的には2人部屋での運用となります。また、棟内に併設されていた休養室は2～3倍程度の広さとなり、ベッド数も同様に多くなります。また、2部屋に仕切られた構造となっており、各部屋にはトイレやシャワーが設置されています。これにより、感染症患者を隔離した運用も可能となります。



九州大学9高専の連携教育プログラム

機械電子システム工学専攻 専攻長 小田原 悟

九州大学と九州・沖縄地区の9高専の連携教育プログラムの構築に向けて令和2年度から取り組んで来た。令和5年度の学生受け入れに向けて本年度も準備を進めている。教育研究体制やカリキュラム等を細部に至る迄検討し、他高専とオンライン会議を通じて協議しつつ、普遍性ある大学・高専連携システムに発展させるよう進めている。

本プログラムに本科5年次の入試で合格した学生は専攻科1年時には本校で、2年時は九大で学ぶ。入学料及び授業料はこれ迄の一般編入学の場合と同金額である。修了した暁には本校専攻科修了と九大卒業の2つの経歴を獲得出来る。

この9月にはオンラインインターンシップとして5名の本科4年生が参加し、電子デバイスや熱エネルギー、光エレクトロニクス関連の研究室を訪問した。

現在、本校でWGを組織し、本校専攻科で既設の教育課程の各科目と九大で学生が受講する科目の単位互換について九大側と協議している。特に、専攻科の教育課程は広い知識を総合的な視点で学習し、工学的なセンスを身に付けることや、深い専門性を涵養する為に個別の専攻の専門教育に重点が置かれている。一方、社会からは様々な工学分野に共通の最新ICTを利活用する情報技術が要求されるので、九大筑紫キャンパスに新設された融合基礎工学科と連携し、新たな教育課程の制定を目指している。融合基礎工学科は物質材料・機械電気コースがあり、学際的な領域の教育研究が出来る点で新規性や独自性に優れている。

また、現在本プログラムの予算で遠隔対応機器を新規に導入し設備整備に努めている。更に、九大の各研究室との先進的共同研究の為に専門性のある教員の養成も重要である。高度の研究成果が期待される優秀な学生を送り出す大きなチャンスである。

我こそと思う学生は奮って挑戦してみよ。

本年度の専攻科の様子

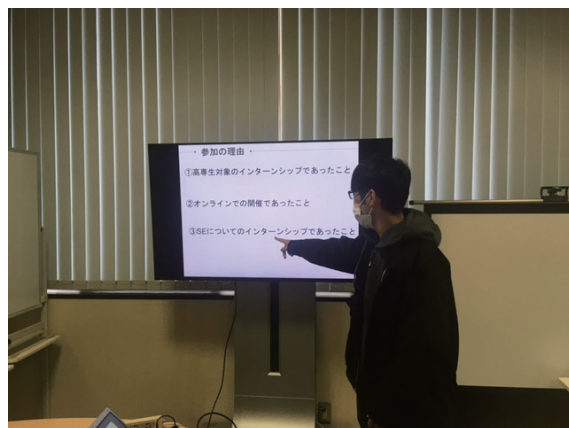
電気情報システム工学専攻 専攻長 古川 翔大

こんにちは。電気情報システム工学専攻(AEI)の専攻長の古川です。さて、この原稿を執筆しているのは12月ですが、急に寒くなりましたね。寒さを感じるとそろそろ特別研究の論文執筆の時期だなあと感じます。本年度も専攻科生は進捗報告会やインターンシップの報告会など様々な行事がありました。

本年度の進捗報告会は例年とは違い、9月末に行いましたが、いかがだったでしょうか？個人的には、科研の申込締切りと重なり、かなり忙しくなってしまったため、今後はスケジュールを見直せばと考えています。学生のみなさんご意見がありましたら、私までご連絡下さい。

インターンシップの報告会は参加人数も少なかったため、昨年度と同様に専攻科長と専攻長のみで行いました。AEIの学生2名が発表を行ってくれました。実際の業務経験や他の高専の学生がどのような状況なのか、など貴重な情報があり、とてもインターンシップへの参加について満足している様子でした。今後も就職活動は続きますが色々と調べて満足できる進路を選択できるように頑張ってください。

最後になりましたが、これから卒業・修了・中間発表に向けてラストスパートになります。今まで高専で培ってきた事を十分に発揮して、悔いのない結果を残して下さい。また、専攻科への進学等について質問がある学生はいつでも私の所までお訪ね下さい。



インターンシップ報告会の様子



地域共同テクノセンターの活動

地域共同テクノセンター長 武田 和大

地域共同テクノセンターは鹿児島高専と地域企業・自治体との連携、共同研究の推進、知的財産に関するマネジメント等を業務としています。運営はセンター長の武田、副センター長の前薮、コーディネータの宮田、各科からの運営委員、総務課企画係で行っています。地域共同テクノセンターは、専攻科棟と接続していて、4階建の専攻科棟の東側の2階建の建屋が地域共同テクノセンターとなっています。

今年も昨年に引き続き新型コロナウイルスの影響を受けた1年でした。思うように動きが取れない中での活動となりましたが、地域共同テクノセンターの取り組みの中から学生に関係する2つの活動を取り上げて報告します。

1. 地方創生とキャリア教育

鹿児島県において、学生・生徒の県内就職率は高いとはいえず、その向上が課題となっています。鹿児島高専においても同様の傾向が見られ、毎年多くの学生が県外企業へ就職していきます。県外企業に劣らない企業が県内にもあるにもかかわらず、それを学生が知る機会が無いこともその原因の1つです。そのため、県外企業と同じ土俵にあげるためには、まずその存在を知ってもらう必要があります。この「地域の企業のことをよく知らない」状態から抜け出すため、そして地域の現状をよく知ってもらうため、地域共同テクノセンターでは、1年生に向けて地域企業による「地域企業特別講義」、2年生に向けて行政機関による「地方創生特別講義」(写真①)、3年生に向けて「地域企業見学会」、4年生に向けて「地域企業研究会(合同説明会)」を計画しました。このうち3年生はコロナ感染症拡大の影響で「地域企業特別講義」に計画を変更して実施しました(写真②)。これら特別講義は、「地元で働くこと」についてだけでなく、「社会で働くこと」について学生が考える機会になるような内容としています。講義終了後の学生アンケートでも講義の目的に合った結果が得られていることがわかっています。4年生の企業研究会は、本稿執筆時点(12月)ではまだ実施されていませんが、状況によって対面かオンラインで行われます。

また、今年はインターンシップ受入企業のリストの中のKTC会員企業については、それとわかるような表記に変更しました。直接の効果は不明ですが、手元に数字があるこの4年間ではKTC会員企業へのインターンシップ申し込みが過去最多となりました。



写真①



写真②

2. 鹿児島高専テクノクラブ(KTC)の活動

KTCは鹿児島高専の産学官連携組織です。毎年開催しているKTC技術研修会は今年、第1回、第2回とコロナ対応のために「鹿児島高専生の就職活動の実際と大手企業の動向」を主題にした特別編成でのオンライン開催となりました(写真③)。研修会では、鹿児島高専での就職活動について、学生が考えていること、スケジュール、地域の企業が力を入れるべき点、大手企業の動向などを現職の担任から説明しました。このテーマはこれまでの会員アンケートで要望が多かったもので、今回のオンライン実施にあわせて取り上げました。2回とも過去最大の参加企業数、参加人数となり、第1回は高専機構のプレスリリースを通じて報道されました。第3回KTC技術研修会は執筆時点では対面開催の予定です。

また今年の新たな取り組みとして、KTCホームページにおけるKTC会員同士の交流促進を目的とした専用Webフォーラムの設置や、学生課入口と厚生会館1階にKTC会員企業PRのためのデジタルサイネージの設置(写真④)を行いました。

地域企業は鹿児島高専生を歓迎しています。新卒だけでなくUターン者の採用にも積極的な企業があることはあまり知られていないと感じています。今後も情報発信に力をいれていきます。



写真③



写真④

学生何でも 相談室だより

学生「何でも」相談室

学生何でも相談室長 野澤 宏大

みなさん、ご機嫌いかがですか？今年度から学生何でも相談室長となりました野澤です。高専機構がいじめや自殺の対策に力を入れている昨今、相談室長が忙しいという場合、学内で何かが起きている可能性が高いことになります。でも皆さん、ご安心ください。私はそれほど忙しくはありません。鹿児島高専は平和です。ただし、だからと言って暇なのかというとそうではなく、単に前年度と比べれば忙しくないだけです。一般に忙しいかどうかの基準というのは、あくまでも相対的な話になります。

さて、本題です。今年度、学生何でも相談室では Microsoft Forms を利用した「鹿児島高専 何でも相談&意見&質問箱」というものを新たに立ち上げました（図1参照）。昨年度末に学生主事（野澤）が実施した、学生向けの満足度調査アンケートの自由記述の中に、

「Web 上に匿名の意見箱があるうれしい」

という意見があったので、それを今年度の学生何でも相談室長（野澤）が採用してみたのです。基本匿名となっていますが、必要に応じて名乗ることもできます。というか、相談の場合はある程度名乗ってもらわないとどうにもできないことが多いです。各教室や掲示板等に QR コードが掲示してありますし、Moodle の「学生何でも相談室」コースからも辿ることができます。12月6日（現行締切日）現在、これまでにトータル 60 件の質問・意見・相談を受けています。

開設したのはいいものの、匿名制のため基本的に本人には返答ができません。当初は回答を共有する場もありませんでした。どうしたものでしょう？新型コロナのため本校が休校となり、遠隔授業に移行したのは、ちょうどそんな時期でした。そう、Moodle を使えばいいのですよね。

現在、「全員で共有すべき」と判断した内容に関する回答については Moodle の「学生何でも相談室」コースに掲載してあります。学生なら誰でも見ることができますので、まだご覧になっていない場合、目を通していただければ幸いです。事務文書のような無意味に堅苦しい表現は極力排除しているので、読めば割と楽しんでいただけるのではないかと思います。

図1 鹿児島高専 何でも相談&意見&質問箱

同じように Forms を利用したものとしては、年2回実施している「高専生活に関するアンケート」があります。昨年度まではマークシート形式でしたが、今年度から Forms に変更しました。中には「設問数が多すぎる」との意見もありましたが、これは高専機構が作成したものですので、減らすことはできません。集計して処理すると、いろいろなことがわかる（らしい）ので、みなさんまじめに回答してくださいね。それから、個人的には最後の自由回答の内容を楽しみにしています。時には、記述した内容について、直接本人まで確認に行くこともあります。一部では「書いた内容が実現した」という噂もあります。おそらく都市伝説です、ということにしておきます。でもさすがに、「教室のエアコンが壊れています」という類の内容は、担任に申し出て、担任が施設係に連絡して解決するものだと思います。そっちの方が圧倒的に早いです。

誰かに直接相談・意見・質問する、あるいはカウンセリングを受けるというのは、少々敷居が高いことだと思います。しかし、Web 上のフォームを利用すれば、その敷居はかなり下がると思います。今後もあの手この手を利用して、学生何でも相談室をご活用いただければ幸いです。



運命を開く 5 要素は国際交流にあり

国際交流センター長 徳永 仁夫

村井チェアマンのお話にあった、“運命を開く 5 要素”、学生の皆さんは覚えていますか？

鹿児島高専は平成 24 年度から 9 高専連携事業主幹校、平成 28 年度から第 5 ブロック(九州沖縄地区)のグローバル高専事業拠点校を務めました。さらに令和元年度からは、グローバルエンジニア育成事業(基礎力養成コース)に採択されています。しかしながら、COVID-19 パンデミックの影響により、海外への学生派遣や受入は全て中止せざるを得ない状況に陥っています。このような困難な状況にあっても、学びを止めることはできません。グローバルマインドセット、特に多様性や異文化を楽しむ姿勢、新しい環境へのチャレンジ精神および自己肯定感を育むことを目指した取り組みを行っています。具体的事例を紹介します。

Global Communication seminar

夏休み期間を利用して「online English camp」を開催しました。自宅から海外と繋がる 2 つのパートからなるプログラムです。(参加人数：28 名)

『Part1』異文化理解力向上プログラム(2 日間)

自国文化の発信やディスカッション、クイズやゲームによる交流を通して異文化理解力を養いました。

『Part2』課題解決力向上プログラム(3 日間)

学生が様々な国の大使を担当する模擬国連スタイルのプログラムです。会議では、国際社会の問題解決を実現するために、英語での演説や交渉を行いました。国際問題の理解(課題発掘力、リサーチ力)や情報発信力、交渉力や協調性、リーダーシップ向上に取組みました。

世界とつながろう Project (Global Club 企画)

(1) 異文化交流 with NTI-Stockholm 校

NTI 校(スウェーデン)との交流は 2014 年から続いています。コロナ禍では、グローバルクラブメンバーを中心にオンライン交流会を定期的に開催しています(表 1)。

(2) 3D-CG ワークショップ

NTI 校の講師・生徒から、3D-CG の基礎テクニッ

表 1 オンライン異文化交流 with NTI 校

日付	テーマ	参加人数	
		鹿児島高専	NTI
2020/5/28	卒業	不明	不明
2021/11/5	SDGs	24	不明
2020/12/10	観光	24	不明
2021/3/11	学校紹介	9	28
2021/3/25	身近なニュース	11	28
2021/4/29	将来の夢	25	不明
2021/5/20	一年の振り返り	14	28
2021/11/9	興味関心のあること	14	20



図 1 オンライン異文化交流 with 南航大

クを英語で学ぶオンラインワークショップを 11 月 16、17 日の 2 日間開催しました。(参加人数：12 名)

(3) 異文化交流 with 南京航空航天大学(中国)

アジア圏での異文化交流プログラムを新たに開発しました。南航大との第 1 回交流会を 11 月 19 日に実施しました(図 1)。(参加人数：14 名)

英語基礎力向上のチャレンジ支援

(1) TOEIC スコアアップチャレンジ

E ラーニング教材を利用した学習支援活動です。鹿児島高専の全学生が利用できます。

(2) 多読・多聴マラソンチャレンジ

英語 4 技能の Reading 力と Listening 力強化を目指した取り組みです。(参加学生：32 名)

教職員のスキルアップも必要

鹿児島高専の国際化を進めるためには、教職員の英語に関するスキルアップも必要です。教職員を対象としたグローバルに関する講演会(FD・SD)やオンライン英会話を実施しており、ほぼ毎日、オンライン英会話に励む教職員もいます。

以上は、取組の一例にすぎません。既に多くの学生が様々なチャレンジを始めています。また教職員も自己研鑽を続けています。皆さんも勇気をもって第 1 歩を踏み出し、運命を自らの力で開いていきましょう。

コロナで後援会活動の厳しさ

後援会 会長 瀬戸口 浩一

日頃より、後援会活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症がまだ収まらず、日常生活にも大きな影響が出ております。皆様も感染拡大を抑えるために日々努力を重ねられているものとお察し申し上げます。学校、保護者自身が学生を守るために感染しないよう注意を払っておりますが、学生たちもマスク着用、うがい手洗い消毒と努力を続けているようです。日々心配は尽きませんが、出来ることを続けていくしかありません。一日も早く新型コロナウイルス感染症に打ち勝ち、みんなが元気にコロナ禍前のような生活が送れるようお願いばかりです。

新型コロナウイルス感染症は、後援会活動にも大きく影響しております。予算の中で一番大きな学生支援経費や国際交流推進経費などの予算執行が、行事の中止やリモートなどにより全額支出できない状況が昨年から続いております。このことは、日々努力している学生の成果を発表する場が失われたり制限されたりしていることにつながります。私も後援会の理事役員として10年目になりますが心が痛んで泣けてくるような気持ちであります。しかし、コロナ禍で学校や学生生活も変化する中で新たなスタートとして考えていくべきではないでしょうか。

質問等でよくあるのが子供の様子が分からない、学校の様子が分からないという意見があります。後援会としても保護者の方々ができるだけ後援会や学校を知っていただくために今年度初めて支部会を動画発信したように少しずつではありますが、後援会も新たなスタートとして後援会活動の在り方等を考えて行くことが必要だと思います。会長として微力ではありますが努力していきたいと思っております。ご指導ご鞭撻をお願いいたします。

最後に、会員の皆様のご支援ご協力に心より感謝申し上げますとともに鹿児島高専と後援会の益々の発展を祈念いたします。

前 進

後援会 副会長 野崎 理香
都市環境デザイン工学科 5年

「高専は、普通の高校とちょっと違うよ。学校や学生の事を詳しく知るにはクラス理事をするといいよ。」後援会副会長を何年も経験された先輩ママさんの言葉をきっかけに、クラス理事をやってみようと思った5年前。理事会では聞きなれない収支科目と桁違いな金額を必死に目で追うのが精いっぱい。でも回を重ね行事に参加することで、先生方の名前や顔も少しずつ覚え、後援会費が学生のために部活動支援はもちろんのこと、TOEIC受験料や国際交流、コロナ禍においては感染予防対策費として多くの分野で支援していることがわかりました。副会長になると同時に新型感染症蔓延で様々な制約や制限が出され、経験のない対応に戸惑い悩むことも増えました。ですがその都度、丁寧に説明してくださる会長、副会長、常務理事や先輩理事の方々。そのおかげで何とか次の方への引き継ぎの時期を迎えようとしています。

高専生は県内各地や離島から集まり親元を離れる学生も多く、学生生活や学習内容など親として見えない部分がありますが、是非！後援会総会や支部会に出席してみてください。情報の宝庫です。三主事（教務・学生・寮務）のお話は学校の取り組みや学生の現状を知る機会になり、支部会での卒業生のお話は就職や進学を選択した経緯などの体験談を聞けます。学科長のお話は具体的な進路先や就職先を知れて参考になります。今年度は感染予防のため後援会ホームページで動画配信になりました。視聴すると、多様化する社会に対応するため学校も学生も様々な事にチャレンジしていることがよくわかります。

助手席の愛犬と共に見送る息子の背中。この5年間に親子共々酸いも甘いも味わい、素晴らしい出会いと貴重な時間を過ごすことが出来ました。長い人生の通過点ですが高専で体験し身につけ学んだことが、これから進んでいくそれぞれの道で生かされると思います。

諸先生方、後援会のみなさま、大変お世話になりました。感謝・感謝・感謝です。

新聞で知る鹿高専生の活躍

後援会 副会長 引地 渉

令和4年の年明け、「鹿高専バド部 悲願の全国V」の見出しを南日本新聞で見つけた。1月7日の記事だ。前年12月に岩手で開催された全国高専大会の男子団体が初優勝し、大きな盾を持ち胸にかけたメダルも誇らしく部員の皆さんが写真に収まっている。第一報は決勝翌日の12月6日付。12行の短い記事は、同じ日に掲載されたハンドボール日本選手権より大きな見出し「鹿高専が初の頂点」が付いている。

同じく全国高専選手権を制したサッカー部は「鹿高専が5連覇」の2段見出しで12月18日に報道された。この日、紙面編集に携わった同僚は「段を立てますよ、5連覇だし」と大きく扱うことを約束してくれた。同部の様子は1月17日付のスポーツ面でも「重圧はねのけ成長」と部員らの笑顔とともに報じられた。

高専生が報道されることは誇らしく、素直にうれしい。また、活躍は部活動に止まらない。

県建築設計競技には、都市環境デザイン工学科の3年生がチャレンジ、上位入賞を果たし学校賞に選ばれた(11月24日付)。金賞受賞の細川爽楽さんは「理想とするアイデアを最大限詰め込んだ」とし、将来の設計に夢を紡ぐ。

11月14日には「サイバー防犯を鹿高専生に委嘱」のタイトルで、4人の学生が県警からサイバーパトロールや啓発活動を託されたことも報じられている。4年の原田耀太さんは「被害を減らす役に立ちたい」と心強い。

小学生対象のプログラミング講座参加者募集や吹奏楽部の定期演奏会の予告も載った。

「下水汚泥を肥料に」(5月25日付)と紹介されたのは本校卒業生でもある山内正仁教授。8月23日の「かお」欄にも登場した。研究を通じ循環型社会を作りたいと意気込みを語り、学生の研究への積極参加の重要性も説く。

「鹿高専生の衛星 宇宙へ」(10月7日付)は全国高専10校が共同開発した衛星が打ち上がる直前の記事。無事宇宙へと飛んだ衛星のように、これからも高専生の活躍にアンテナを張って情報をキャッチし、私たち後援会も、頑張る学生の活動に精いっぱい支援を続けたい。

信じて歩んで

後援会 副会長 米森 博子

幼いころ、文字を書くよりも数を書いたり数えたりするのが好きで、やがて数学が好きになり、中学3年の最後の三者面談の土壇場で志望校に「高専」と記入した息子は、この日まで肝心なことはあまり語らず親として気を揉みましたが、決めてからは目標に向かい入学をすることができました。でも、元来のんびりとマイペースな息子にとって高専の「自由=自己管理」は難しい様子で、半年もすると普通(補習や行事で3年が早い)の高校の方が良かったのではと、親としては思うこともありました。特に昨年は新型コロナウイルスのため遠隔授業で家にいることも多く、不安は一段と強かったです。でも長い休み明けには「やっぱり皆に会えて学校は楽しい」と、学校に通う姿に親として少し安堵しています。

一方、保護者として縁あって理事の仕事をお受けしたのはいいものの、高専の事は何も分からず大丈夫かしら…と心配でしたが、理事会や支部会で直に先生方、OBの方卒業生のお話を聞く機会があり少しずつ学校を知ることができました。特に支部会の分散会での同じ科の先輩保護者との交流や体験談はとて有難かったのを覚えています。コロナ禍でこのような機会が失われてしまったのはとても残念に思います。

11月にWEBに載せる卒業生のお話の収録に参加して、夢に向かう姿に同じ学校に在籍していることを誇らしく思い、また、12月の理事会では先生方のお話を理事の皆さんと久々に対面で聞くことができ、困難な時でも学生の為に様々なことに尽力され、色々なプロジェクトを立ち上げて下さっている事を有難く思いました。

もう3年過ぎてしまいましたが、息子が選んだ高専は人も環境も素晴らしいものだと思っています。息子には多くの人と関わり、素直にやりたいことに向かってしっかりと学び歩んでほしいと願っています。私も微力ながらお役に立てるよう努めたいと思います。

嘘、合格った！？

電気情報システム工学専攻2年 理事
塩満 さなえ

しかも推薦で。子供も私も高専に行くことは中学2年生までは全く考えていなかったの。というよりそういう成績でもなかったからです。私の中の高専というのは賢い子が通う学校なんです。だから合格したのは本当に嬉しいんですよ。でも、ついていけるのかと…しかもダメもとの推薦。あくまでも一般入試での合格を目指していました。ではなぜこの高専を受けることになったのかといいますと。子供は小学高学年の時、通知表の算数が「頑張りましょう」でした。私には教えられません。なので学校の登下校中にある塾に通うことになりました。そのバイトに来ていたのが高専生でした。その高専生に「『高専に来ない?』と声をかけられたよ。」と子供が話してくれました。「まっ、入れたらねえ」で笑いあったんですよ。

中3になると実力テストに希望校のランク付けがあるのですが、一応高専を出すわけです。最初の模試では、都市環境デザイン工学科がDで、在籍している情報はE。次は都市環がBで。そういう子供が高専に合格したのは驚きと親類縁者の方々も大いに喜んでくれました。

さて、子供の学校生活はというと専門の情報がかなり難しいらしく帰宅するたびに「難しい」「意味分かんない」の連発。また数学の教科とは別に微分積分の授業もあり、職業系の高卒の私にはさっぱり? そんな中でも、部活では英語部に入っており、今年も予選を経て全国大会への切符をつかみました。そして、この高専には「Robogals 鹿児島」という活動があります。コロナ禍の前までは、子供たちへの出前授業、イギリスへの活動報告やラジオテゲテゲハイスクールへの出演などと、結構忙しく活動していました。

振り返ると7年間、2555日、60480時間。子供にとってはどんな一年、一日、一時間だったんでしょうか。最後に無事就職も決まりました。高専のおかげだよと喜びました。あともう少し学生生活がありますが、将来に向かって卒業おめでとう。そして私と夫の学校の送り迎えご苦労様でした。

長男、そして次男と…。

電子制御工学科5年 理事
有川 ひとみ

長男、次男共にここ鹿児島高専にめでたく入学できて今のところ合計8年お世話になります。この高専に御縁を頂いて親子して実に色々な感動や経験をさせて頂き、ここに入学して本当に良かったと思います。

内弁慶な長男、活発な次男と兄弟でも性格は違いますがそれぞれいくつもの貴重な経験ができて勉学の学び以外でも多くの宝物を頂いたと思います。

特に印象深いのは長男の1年の時の応援団の時のメイクミラクル…。まったくついていけず悔し涙をポロポロ流しながらそれでも繰り返し朝までひたすら練習を重ねる日々。やがて少しずつ動けるようになり、先輩方や仲間たちにも頑張りを入れて貰えるように…。本番での見違えるような姿には感動したのと、できるようになるまでやり通したわが子の姿に親の私が教えられました。おそらく彼の人生においてこの経験は大きな支えになることでしょう。見守ることしかできなかった私にとっても一生忘れない大切な心の宝物になりました。不器用だった長男を厳しくも温かくサポートしてくれた先輩方、仲間たちにも深く感謝です。

私が強く皆さんにお伝えしたいことは、ここは学びたいと思えば学べるし、やりたいこともとことんやれる、有難い環境にあるということ。現在はコロナ渦にあり、ある程度制約はあるかもしれませんが、どうか在校生の皆さん、せっかくな環境にいるのだから自分のやれる範囲で精一杯、色々学んでここを巣立つときは、一回りも二回りも大きくなって羽ばたいて下さい。

うちの次男もあと2年、専攻科に在籍させて頂けるので、この2年のうちにさらに色々経験して骨太になって社会に出てほしいものです。

最後になりましたが、何かと親身になって下さった先生方、後援会の皆様に感謝を申し上げますとともに、これからもよろしくお願い申し上げます。

恵まれたこの学び舎で

機械工学科1年 理事 中見 真琴

一昨年、中3になった娘が受験するのは高専だと話した時、少なからずいろいろな人に驚かれ、時には心配されました。女の子は高専に入れるのか、入っても女子は少なく大変じゃないのか、どんな学校なのか。親としてもほとんどわからず、不安が全くなかったわけではありません。でも、「自分は物作りが好きだった」と思い出した彼女には、受験に迷いがありませんでした。

入学してしばらくたった今、こんなにも恵まれた環境が世の中にあったのかと驚いています。いろいろなことで、「今日はこんなことを授業でやった」「今日はこんなものを作った」「あの先生の話が面白い」「この数学の問題の解き方は」などなど、いつも目を輝かせて話してくれるのです。それは聞くだけでも面白く、子どもの頃の自分の疑問への答えを見せてもらえて驚いたりもします。高校時代に自分が感じていた「こんな公式覚えて何になるんだ」という思いが、一つずつ解消されていくような気持ちです。

思えば小学校・中学校時代、我が子は学校でとても退屈しているように見えました。学ぶことよりも他のことを心配し、振り回されていました。そんな彼女が「楽しかったー!!」と言いながら目を輝かせて帰ってくる。こんなにうれしいことはありません。

「学ぶって、こういうことだよね!」と、娘に言われます。彼女は今、初めて学んでいるような気がしているのかもしれません。学びたかった専門的なことを学び、余裕のある時間でさまざまな試行錯誤をし、いろいろなことを吸収しているようです。

学校生活にあたっては担任の先生を始め、周りのいろいろな方々からのたくさんの気遣いと配慮をいただいています。本当にどれだけ感謝してもしきれません。

迷いの中から自分で進路を選び、道を切り開いてきた娘の判断は、間違っていなかったのでしょう。これから数年かけ、色々な人の力に支えられつつ恵まれたこの学び舎で学び、いつの日か自分らしく力を発揮して誰かの力になれるようになってほしいと心から願っています。

こだわりと執着

電気電子工学科 理事 藤崎 明子

中学校3年間。本人にとっては、悩みながら過ごした濃い3年間であったろうと思う。帰宅すると話を聴いて、人の道から外れてないということだけは判を押して、中学校生活が少しでも充実したものでありますようにと祈るばかりだった。聞けば、よくぞ休みもせず学校に通い、当たり前前に帰って来てくれた、と思う環境や出来事もあった。15歳の頃、自身の価値や将来に悩み不安定だった自分と重ねて、娘の強さと無事に感謝した。

ちゃんと食べているか、寝ているか、学校生活はどうか、傍で見聞きできた3年間はもう過去となった。今は小学生のときから憧れ目指したものを貫いて、鹿児島高専、寮で生活している。食事もある程度1日3食、栄養の調ったものを提供して頂き、立派な寮に眠ることができ、先輩にもおそらくとてもお世話になり、担任からのお叱りは今の所ない。まったく連絡してこないし、帰ってこない。寂しくないものかと心配するが、周りの人達からは、「自立しているのだ」と言われる。「自立」と言って良いのだろうか。つい、「いやいや…」と返してしまう。

経済的自立は形に見えるが精神的自立はなかなか分かりにくい。そもそもどう考えられるようになれば大人というのだろうか。自分自身に執着した未熟さに何とか向き合いながら、家庭で「おかあさんだいすき」と（小さいときは）言ってくれた子ども達のために、仕事で頼りにして下さるお客さんのために、私なりのこだわりを持って日々を積み重ねてきた。私は、悩み欲しがった自分の価値を、誰かを想う日々から授かった。執着は自分のため、こだわりは誰かのため。悩んだときは、執着してしまっていないか考える。こだわりか執着か、問答すると大概のことはクリアになる。たまには尊敬できる人生の先輩や友人に答え合わせを請い、中年世代となっても、精神的に自立した大人として成長するための、今を生きている。

新たな環境で多くのかたがたと関わり、学び、執着から脱した彼女は何を創り出していくのだろう。娘の創造にワクワクする。彼女の自立の形を楽しみに、これからも応援したい。



編集後記

「鹿児島高専だより」第76号をお届けいたします。今年度は、従来の「高専だより」から内容を大幅に変更し、前半部分に学生たちの活動や活躍を配置いたしました。その分、学校側の各種委員会のページは少なくなっていました。また、カラー化を図り、写真や図を盛り込むなどしています。「なるべく学生たちの様子を伝えたい」と思っていたのですが、いかがでしたでしょうか。今後も、少しずつよりよい紙面にしていければと存じます。

昨年度に引き続き、今年度も新型コロナウイルスが猛威をふるうなかでの学校生活となりました。昨年度は無観客で行われた高専祭も、今年度は体育祭のみではありますが、4年生の保護者をお招きすることができました。年明けからはオミクロン株が猛威をふるっていますが、少しずつ元の生活に戻っていくことを願うばかりです。

この原稿を執筆している2月24日に、ロシアによるウクライナ侵攻が始まりました。ますます先行きが不透明な現代社会のなかで、次の世代の子供たちにどんな未来を残したいのか、残せるのか、ということが改めて問われており、そのために私たちにできることを様々なレベルで考えなければならぬと痛感しています。高専生は年齢層も幅広く、子供でもあり大人でもある時期だとは思いますが、自分たちがこれから参加していく世界についてまずは広く知らなければなりませんし、そのために教員も最大限の努力を払わなければならないと思います。こうした世代間のバトンタッチを通じて、私たちが生きてきた時代よりもよりよい時代を次の世代につなげていければと考えています。悲惨なニュースに接する機会の方が多いですが、希望のあかりはともし続けていきたいものです。

最後になってしまいましたが、高専だよりの発行にあたり、ご寄稿いただきました執筆者の皆様には、厚く御礼申し上げます。また、岸田広報センター長をはじめとした広報センター委員の皆様方には、様々な面でご協力・ご高配をいただきました。この場をお借りして感謝申し上げます。

「高専だより」主担当：町 泰樹

「高専だより」専門委員会委員（広報センター）

センター長	岸田 一也（電子制御工学科）
副センター長	町 泰樹（一般教育科）
委員	白石 貴行（機械工学科）
	今村 成明（電気電子工学科）
	瀬戸山康之（電子制御工学科）
	新徳 健（情報工学科）
	山田 真義（都市環境デザイン工学科）

担当事務 学生課図書情報係

「鹿児島高専だより」第76号

編集 鹿児島工業高等専門学校 広報センター
発行 鹿児島工業高等専門学校
〒899-5193
鹿児島県霧島市隼人町真孝1460-1

